

立川市 58 街区の利活用計画策定に向けた検討調査

報 告 書

平成 2 4 年 3 月

立 川 市

はじめに

市では、第3次長期総合計画第3次基本計画の「広域的な魅力とにぎわいづくり」の中で、旧庁舎施設・敷地と市民会館を一体利用するとともに、立川駅南口第二有料自転車等駐車場として暫定利用されている旧南口バスロータリー跡地（以下「58 街区」といいます。）の利活用により、にぎわいとまちの活性化に取り組むことと規定しています。このような中、58 街区の活用について、平成 19 年 3 月に立川駅南口周辺まちづくり協議会から提言書が、また、平成 21 年 9 月に立川南口街づくり協議会から「58 街区」に関する提案書が提出されています。

58 街区には、市の所有地と東京都住宅供給公社の所有地がありますが、市では公社の所有地について、過去に買い取りの申し入れをしてきました。しかし、東京都から多摩地区の施設の改築に際し、都民サービスの向上の視点から、58 街区に施設の集約化を図るという考え方が示されました。これを受け市では、58 街区の有効活用を図るため、東京都と合築で施設を整備する方向で検討を進めることとしました。

東京都は、平成 24 年度に 58 街区の施設整備に係る基本計画を策定することになっています。そこで市としても、これまでの経緯を踏まえた上で、周辺にある施設の機能や市民、来街者の意向など、その活用の方向性について調査・検討し、報告書としてまとめました。

平成 24 年 3 月

立川市 58 街区の利活用計画策定に向けた検討調査報告書

- 目 次 -

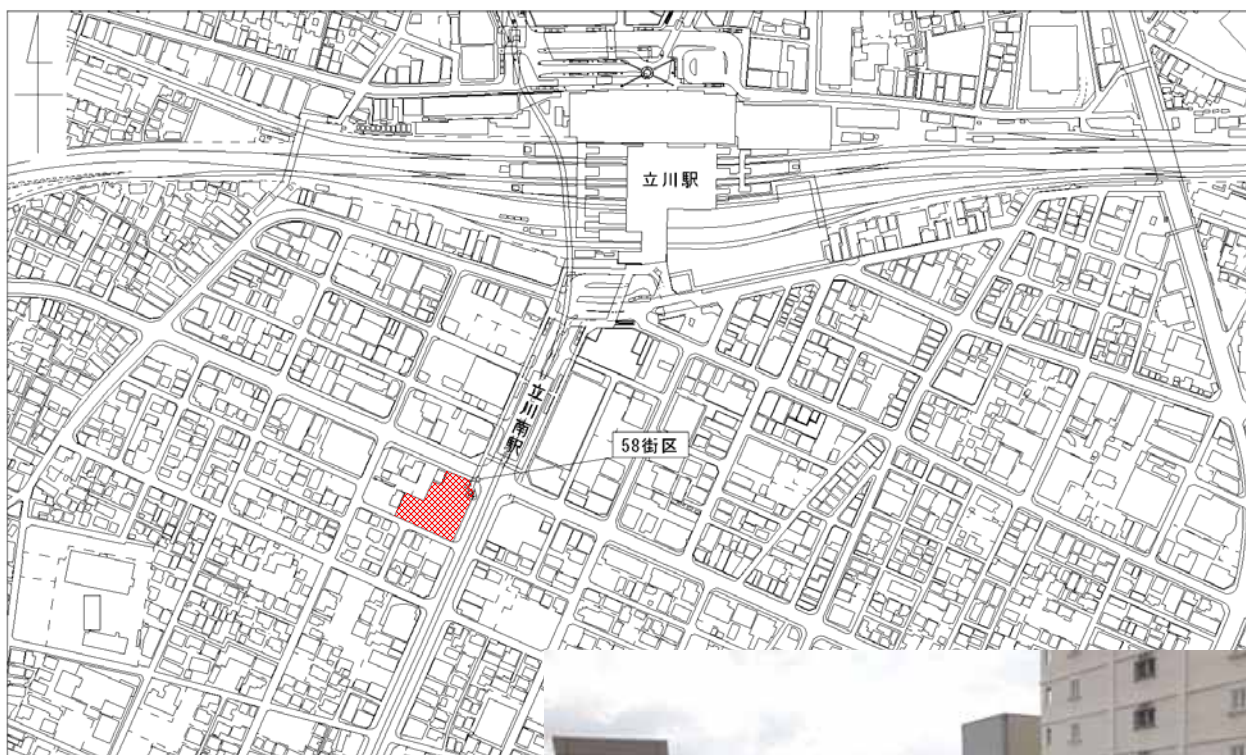
1 . 検討調査の目的	1
2 . 現況把握	2
(1) 南口ペDESTリアンデッキ周辺地域の現況	2
(2) ペDESTリアンデッキ周辺の利用状況	5
(3) 58 街区の概要	8
3 . 関連計画等.....	12
(1) 上位・関連計画	12
(2) 関連する施設計画	20
(3) 立川南口街づくり協議会からの提案書	23
4 . 市民・来街者の意識調査の結果概要	24
5 . 課題の整理.....	32
(1) 58 街区を取り巻く現状の課題	32
(2) 調査等から導かれる課題.....	32
6 . 導入機能の検証	36
7 . 基本構想	41
(1) コンセプト	41
(2) 導入機能の設定	42
8 . 導入後の効果予測.....	46
(1) 導入機能によるデッキ通行量の将来推計.....	46
(2) 回遊性の将来推計	47
9 . 事業実現に向けて.....	48
巻末資料	49

1 . 検討調査の目的

現在、58 街区は、東京都住宅供給公社（1,687.00 m²）と市（388.20 m²）が所有しています。

この検討調査は、ペDESTリアンデッキに接する 58 街区を地域活性化の重要な拠点とするため、東京都と合築で整備する施設に導入すべき市の機能について、現状や課題を整理し、その方向性を基本構想としてまとめるものです。

< 58 街区の位置図 >



< 58 街区の現況写真(北側より) >



2．現況把握

(1) 南口ペDESTロリアンデッキ周辺地域の現況

1) 立川駅南口の地域特性

JR 立川駅周辺は、立川駅前歩道立体化計画（平成 5 年度）に基づきペDESTロリアンデッキが整備されています。JR 立川駅南口においても、多摩都市モノレールの立川南駅をつなぎ、さらに計画地である 58 街区までこのデッキでつながっており、商業施設などに直結しています。

建築物については、立川駅北口には比較的規模の大きい商業施設や事務所が立地していますが、南口周辺では中小規模の商業施設、アミューズメント施設、事務所などが立地しています。駅より少し離れた南側の街区には、2、3 階建ての店舗併用住宅や集合住宅・専用住宅も見られます。

2) 商業の状況

○ 商業施設の状況

立川駅周辺における商業施設は、大規模な施設を中心に立地しています。近年、南口方面においても、駅ナカから南口にかけてエキュートやアレアレといった大型店が開設されましたが、大規模な商業施設は北口に比べると駅に隣接して集積している状況です。



○小売業及び卸売業の状況

平成 19 年 6 月 1 日現在、市の小売業は、多摩地域の中では八王子市、町田市に続く約 2,950 億円の年間販売額を有しています。卸売業では、約 5,810 億円の年間販売額があり小売業の倍以上となっています。そのうち、58 街区周辺の柴崎町と錦町の卸売業の事業所数は 133 箇所、市内全体の約 31%を占めています。また、小売業の事業所数は 316 箇所、市内全体の約 24%を占めています。

＜東京都総務局統計部「商業統計調査報告」より＞

○商店街の状況

市内には 41 の商店街（会）があり、そのうちの 26 の商店街（会）が立川市商店街振興組合連合会に加盟しています。立川駅南口（58 街区周辺）には次の商店街があります。

	商店街名	店舗数 (件)	飲食 (%)	物販 (%)	サービス (%)	事務所 (%)
1	共栄商店会	29	0.0	31.0	17.2	41.4
2	諏訪通り商店街振興組合	76	22.4	40.8	9.2	14.5
3	日活大通り商店会	42	19.0	14.3	19.0	47.6
4	ハッピータウンしばざき H21 より、柴崎中央商店会に名称変更	76	38.2	18.4	11.8	27.6
5	南口西通り西会商店会	25	28.0	16.0	20.0	24.0
6	立川南口中央通り商店会	44	11.4	27.3	13.6	47.7
7	立川南口商店街振興組合	47	51.1	8.5	17.0	23.4
8	立川南口すずらん通り商店街振興組合	80	37.5	18.8	13.8	30.0
9	立川南口いろは通り商店街振興組合	66	45.5	24.2	10.6	19.7
10	錦商店街振興組合	90	24.4	22.2	7.8	6.7
11	錦中央通り商店街振興組合	60	23.3	26.7	18.3	23.3
12	錦一二三商店会	62	16.1	41.9	3.2	32.3

＜平成 18 年度立川市内商業環境調査（商店街実態調査）報告書より＞

注）1 調査基準として、事務所を含めた全事業所（路面店）を対象とし、未加入のビルの上階の店舗は対象外とする。

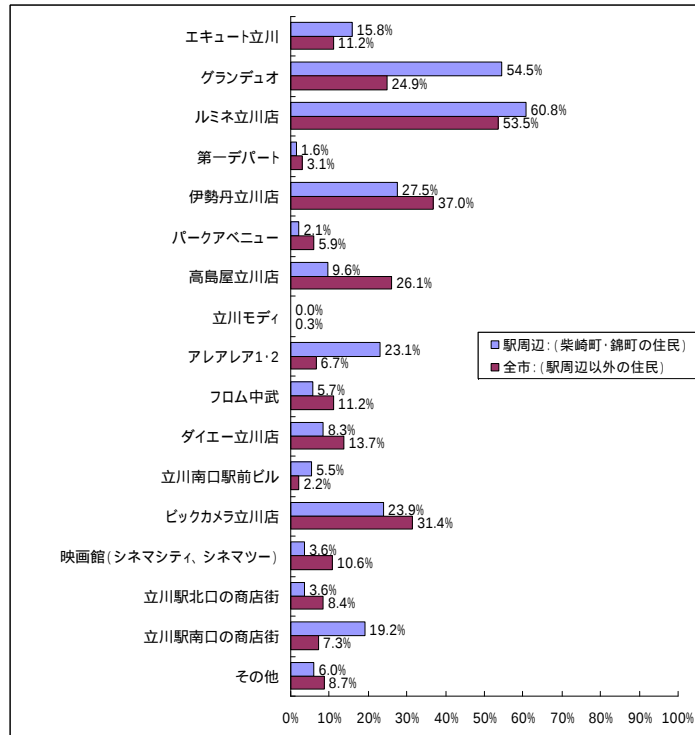
2 店舗数は、商店街（会）未加入の店舗も含む。

業種構成について、立川南口商店街振興組合、立川南口いろは通り商店街振興組合では飲食の比率が、諏訪通り商店街振興組合、錦一二三商店会では物販の比率が、共栄商店会、日活大通り商店会、立川南口中央通り商店会では事務所の比率が、それぞれ 40%を超えています。

○ 市民アンケート（巻末資料参照）からの商業施設の利用状況

Q8．よく利用する場所（お店）を 3 つまでご回答ください。

市民アンケートの調査から、市民は全般的に駅周辺の大規模な商業施設をよく利用しています。駅周辺の住民は、駅ビルの利用が多く、南口商店街の利用も比較的多い状況です。一方、駅周辺以外の住民は、南口にある施設の利用は比較的小さい状況です。

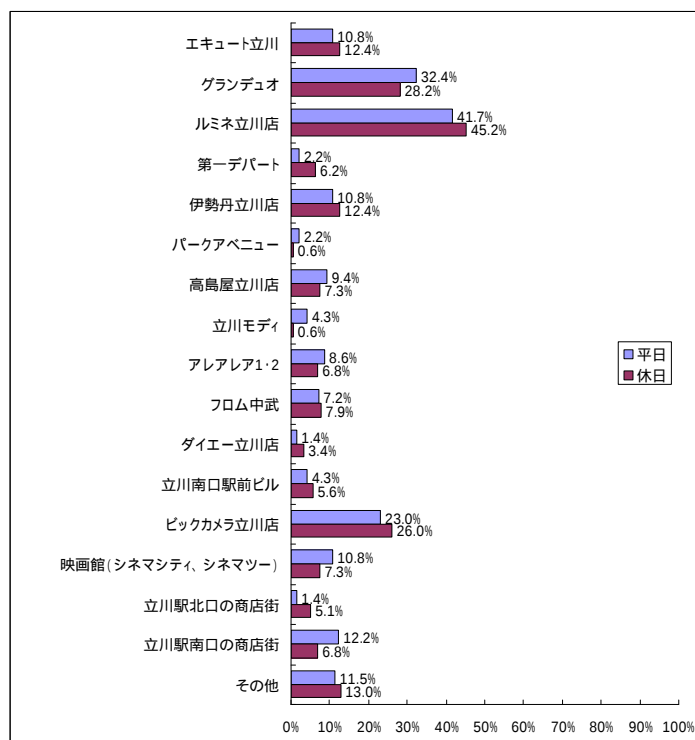


< よく利用する場所（市民アンケート調査結果より） >

○ 街頭インタビュー調査（巻末資料参照）からの商業施設の利用状況

Q8．よく利用する場所（お店）を 3 つまでご回答ください。

街頭インタビュー調査の対象である市外からの来街者は、一部の大規模な商業施設の利用に偏っている傾向があり、商店街等の利用は比較的小さい状況です。



< よく利用する場所（街頭インタビュー調査結果より） >

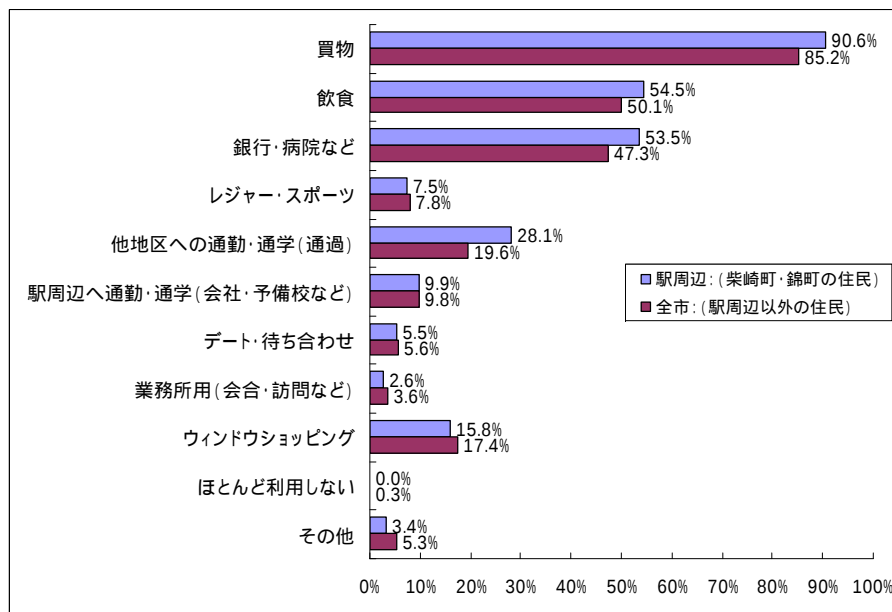
(2) ペDESTロリアンデッキ周辺の利用状況

1) 施設利用の状況

立川駅周辺の利用については、市民や市外からの来街者とも、買物や飲食を目的としている方が多くなっています。具体的には、市民アンケート調査では 85% 以上が買物、50% 以上が飲食と回答（複数回答）しています。市外からの来街者を対象とした街頭インタビュー調査においても買物と飲食が上位を占めています。

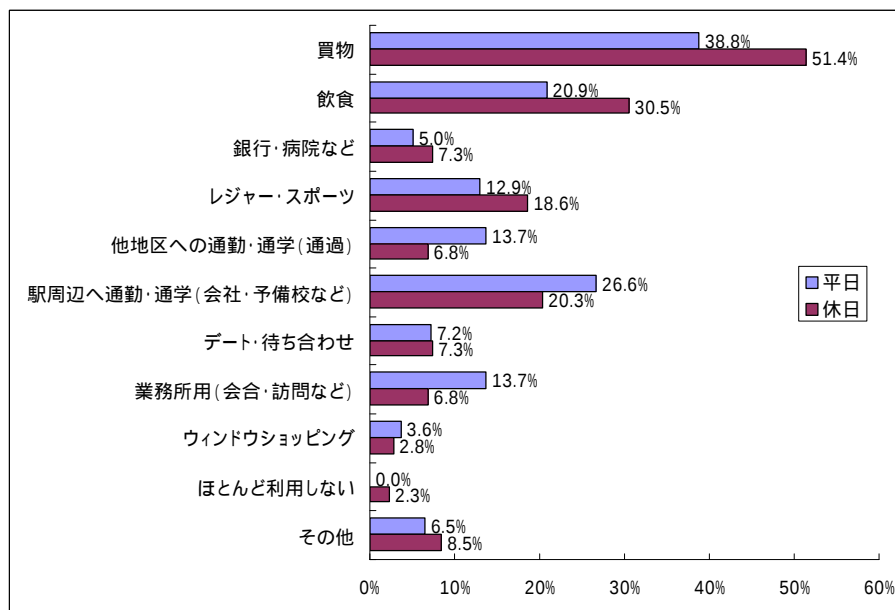
< 市民・来街者の意識調査より >

Q7 . 立川駅周辺をどのような目的で利用していますか。（主な目的に 3 つまで。）



< 立川駅周辺の利用目的（市民アンケート調査結果より） >

Q7 . 立川駅周辺をどのような目的で利用していますか。（主な目的に 3 つまで。）

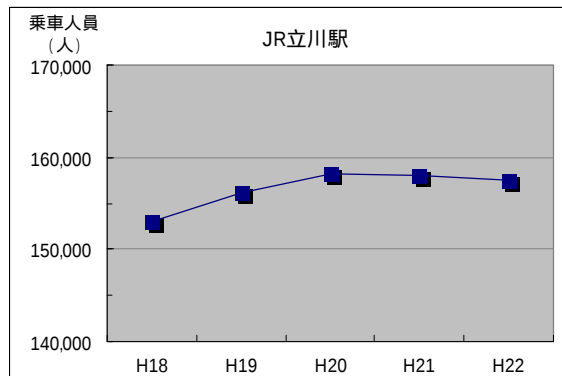


< 立川駅周辺の利用目的（街頭インタビュー調査結果より） >

2) 鉄道駅利用者の推移

市内には、JR 中央線、青梅線、南武線のほか、西武拝島線、多摩都市モノレールの 5 路線が整備されており、多摩地域の交通の要衝となっています。

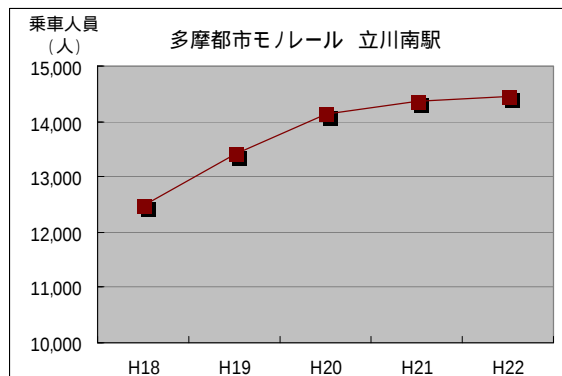
ここでは、JR 立川駅、多摩都市モノレール立川南駅及び立川北駅における 1 日当たりの乗車人員の推移（平成 18～22 年度）について整理します。



■ JR立川駅
1日当たりの乗車人員の推移

年度	総数(人)
平成18年度	152,974
平成19年度	156,143
平成20年度	158,123
平成21年度	158,068
平成22年度	157,517

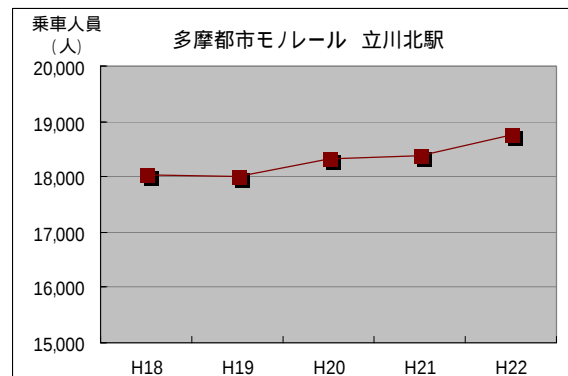
資料: 東日本旅客鉄道(株)



■ 多摩都市モノレール 立川南駅
1日当たりの乗車人員の推移

年度	総数(人)
平成18年度	12,492
平成19年度	13,405
平成20年度	14,122
平成21年度	14,356
平成22年度	14,449

資料: 多摩都市モノレール(株)



■ 多摩都市モノレール 立川北駅
1日当たりの乗車人員の推移

年度	総数(人)
平成18年度	18,035
平成19年度	17,996
平成20年度	18,316
平成21年度	18,395
平成22年度	18,744

資料: 多摩都市モノレール(株)

< 鉄道駅の 1 日当たり乗車人員の推移 >

JR 立川駅における乗車人員は、平成 18 年度の 152,974 人から平成 22 年度には 157,517 人と 3% 程度増加しています。多摩都市モノレールについても同様に、立川南駅では平成 18 年度の 12,492 人から平成 22 年度には 14,449 人と 16% 程度、立川北駅では平成 18 年度の 18,035 人から平成 22 年度には 18,744 人と 4% 程度それぞれ増加しています。

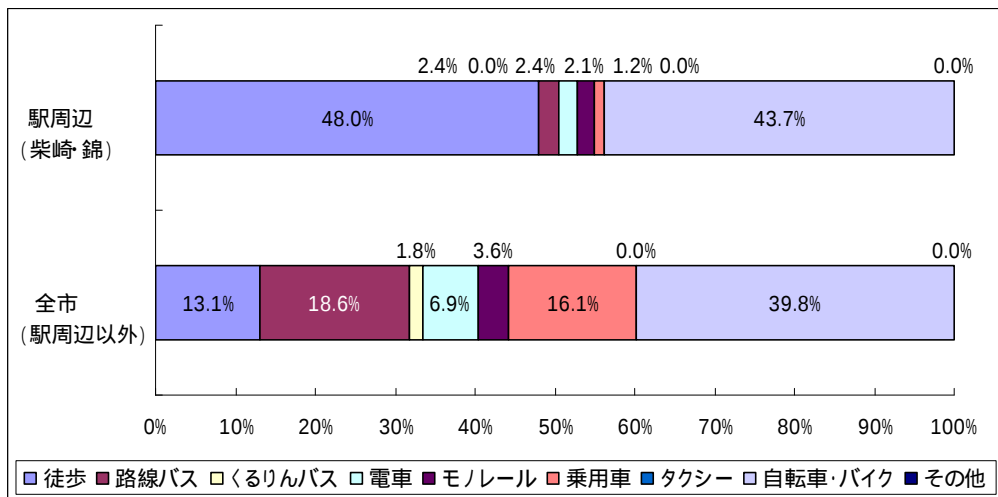
乗車人員は近年増加傾向にあることから、多摩地域の交通要衝としての役割が充実してきていることがうかがえます。

3) 利用の交通手段

立川駅周辺を利用する際の交通手段としては、市民・来街者の意識調査より、次のような傾向が見られました。

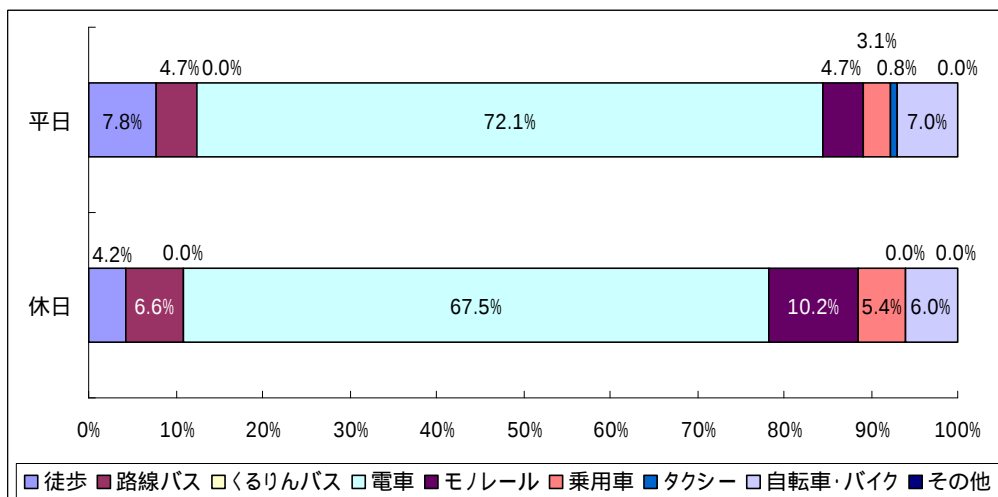
- 駅周辺の住民では約 44%、駅周辺以外の住民でも約 40%と、「自転車・バイク」を交通手段としてよく利用しています。
- 街頭インタビュー調査より、市外からの来街者は「電車」での利用が約 70%となっています。公共交通機関の利用が 80%を超えており、これはターミナル駅として、駅周辺の公共交通機関が充実していることによると推測されます。

Q10. 立川駅まではどの交通手段で来ることが多いですか。



< 立川駅周辺を利用する際の交通手段 (市民アンケート調査結果より) >

Q10. どの交通手段でいらっしゃいましたか。



< 立川駅周辺を利用する際の交通手段 (街頭インタビュー調査結果より) >

(3) 58 街区の概要

1) 58 街区の敷地概況

計画地である 58 街区は、立川駅南口から南へ約 200m（徒歩で約 2 分）、ペDESTリアンデッキの最南端に位置し、このデッキ上と地上部をつなぐ階段やエレベーターが設置されています。

現在は、立川駅南口第二有料自転車等駐車場（約 1,700 台収容）として暫定利用されています。

- 住所：立川市柴崎町 3 丁目
- 面積：2,075.20 m²
（うち東京都住宅供給公社所有 1,687.00 m²、市所有 388.20 m²）
- 用途地域：商業地域、第 2 種中高層住宅専用地域



2) 建ぺい率・容積率

58 街区の敷地内には 3 つの建ぺい率・容積率の指定があります。この指定に基づき 58 街区に整備できる施設規模を機械的に算出すると、敷地全体では概ね次のようになります。

< 建ぺい率算定 >

敷地に 2 以上の建ぺい率の指定がある場合、その敷地に建築できる建築物の建ぺい率の限度は、敷地の面積比の加重平均により算出されます。これにより算出すると次のようになります。

建ぺい率：約 70%

建築面積限度：約 1,400 m²

< 容積率算定 >

敷地に 2 以上の容積率の指定がある場合、その敷地に建築できる建築物の容積率の限度は、敷地の面積比の加重平均により算出されます。これにより算出すると次のようになります。

容積率：約 350%

延べ床面積限度：約 7,200 m²

< 駐車場等での整備による容積率緩和措置 >

自転車駐車場として整備した場合は、全体延べ床面積の 5 分の 1 を限度として容積率が緩和されます。ここで算出した面積は、上記の容積率算定で算出された延床面積に加算できますが、自動車車庫等の用途に供することに限られます。

自動車車庫等の床面積限度：(約 7,200 m² × 5/4) × 1/5 = 約 1,800 m²

< 最大建築面積 >

容積率緩和措置を考慮した延べ床面積の最大限度は次のようになります。

延べ床面積最大限度：約 7,200 m² + 約 1,800 m² = 約 9,000 m²

3) 58 街区に関するこれまでの経緯

58 街区の土地利用、所有などに関するこれまでの経緯を整理します。

○昭和 50 年

東京都住宅局が富士見町団地を建設するにあたり、立川駅周辺にバスターミナルの設置が必要となりました。東京都が用地を取得し、その土地を無償で提供するという合意のもと、市がバスターミナルを建設し、管理をしてきました。

○昭和 57 年 7 月

東京都住宅供給公社と「土地使用貸借契約書」及び「土地使用貸借契約締結に伴う了解事項」を締結し、以後市からの申請により、公共施設用地として無償使用することとなりました。ただし、区画整理事業の進捗にともない公社が土地の利用計画を定めるまでの措置となっています。この契約に基づき、バスターミナルと南口第二自転車駐車を併設しました。(平成 13 年 12 月まで)

○平成 9 年 9 月

「南口第三立体駐車場(仮称)」の用地として、隣接する民有地 400 m²を購入しました。

○平成 14 年以降

駅前広場バスバースの供用開始にともない、当該土地全面を自転車駐車場として使用しています。

○平成 16 年 3 月

市は東京都に対し、58 街区の用地について、買収の意向を示しました。

○平成 21 年 9 月

立川南口街づくり協議会より「58 街区」に関する提案書が提出されました。

○平成 22 年 3 月

58 街区の用地について、東京都に対し、再度買収の意向を示しました。

○平成 23 年 3 月

東京都より多摩地域の施設の改築に際し、都民サービスの向上の視点から、交通の便が良い 58 街区に施設の集約化を検討している旨の考え方が示されました。

○平成 23 年 7 月

58 街区における東京都と市が共同で整備する施設に関する必要な協議をするため、協議会を立ち上げました。

○平成 23 年 12 月

東京都の活用方針として、東京しごとセンター多摩の 58 街区への移転を発表しました。

4) 立川駅南口第二有料自転車等駐車場の利用状況

立川駅南口第二有料自転車等駐車場は、約 1,700 台の自転車や原動機付自転車を収容できます。立川駅南口の有料自転車駐車場においては最も駐車台数が多く、立地条件の良さから利用率も非常に高い自転車駐車場となっています。タワー型自転車駐車場などでは定期利用の空きがある状況ですが、この自転車駐車場は定期利用の申し込みも定員を上回る申し込みがあり、毎月抽選を行っている状況となっています。

< 立川駅南口の自転車駐車場と利用台数、利用率 > 平成 23 年 10 月分

名 称	供給台数	供給台数内訳	利用台数	利用率
立川駅南口立体有料自転車駐車場	717 台	自転車定期利用 539 台 自転車一時利用 178 台	434 台 132 台	81% 74%
立川駅南口第一有料自転車駐車場	130 台	自転車定期利用 130 台	138 台	106%
立川駅南口第二有料自転車等駐車場	1,544 台 原付を含まない	自転車定期利用 1,148 台 自転車一時利用 396 台 (原付一時利用 143 台)	1,150 台 514 台 151 台	100% 130% 106%
立川駅南口第三有料自転車駐車場	172 台	自転車定期利用 172 台	163 台	95%
立川駅南口第四有料自転車駐車場	181 台	自転車定期利用 181 台	198 台	109%
立川駅南口第一タワー有料自転車駐車場	794 台	自転車定期利用 547 台 自転車一時利用 247 台	195 台 35 台	36% 14%
立川駅南口第二タワー有料自転車駐車場	414 台	自転車定期利用 294 台 自転車一時利用 120 台	265 台 54 台	90% 45%
合 計	3,952 台			

< 参考：臨時自転車駐車場（61 街区） >

58 街区に近接する 61 街区（道路を挟んで東側の街区）には、臨時自転車駐車場として 1,500 台の無料自転車駐車場が設けられています。利用時間が制限（10:00～24:00）されていますが、こちらも利用率は高くなっています。しかし、61 街区は借地（6 ヶ月ごとに契約更新）であり、恒久的な自転車駐車場とすることは難しい状況です。



< 61 街区の現況写真（北側より） >

3．関連計画等

(1) 上位・関連計画

立川駅南口周辺の位置付けや将来のまちづくりの方向性などについて定めた上位計画・関連計画を整理し、58 街区及びその周辺地域における考え方を整理します。

1) 第 3 次長期総合計画 第 3 次基本計画（平成 22 年）

第 3 次長期総合計画 第 3 次基本計画は、統一将来像「心のかよう緑豊かな健康都市立川」の実現を目指し、政策決定や分野ごとの個別計画、中期的な市政運営の基本的な考え方を示したものです。

「第 4 章 都市づくり」における施策「魅力ある市街地環境の整備」では、その施策の展開に「1 活力ある中心市街地の形成」が、「交通網などの整備」では、その施策の展開に「3 自転車をいかしたまちづくり」が、また「第 5 章 産業の振興」における施策「広域的な魅力とにぎわいづくり」では、その施策の展開に「1 広域多摩の中核都市としての拠点性の強化」と「2 多様なネットワークによる産業活性化の推進」が掲げられています。

第 4 章 都市づくり

【施策体系】



【施策展開のポイント】

■ 1 活力ある中心市街地の形成

< 施策の目標 >

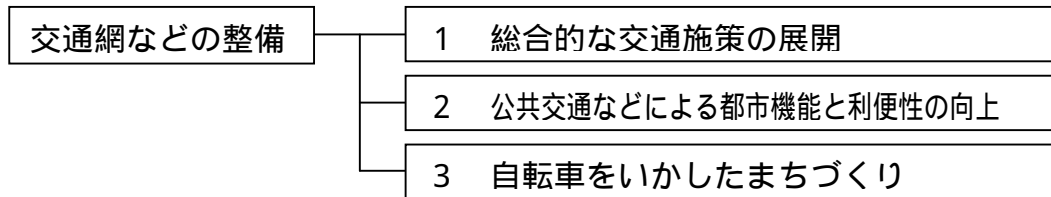
JR 立川駅周辺に業務・商業機能等の多様な機能の集積を図り、多摩地域の中核都市として多様な人々が訪れ交流する活力ある中心市街地を目指します。

< 取組の方向性 >

立川駅周辺のまちづくり < 抜粋 >

立川駅北口西地区第一種市街地再開発事業により、業務、商業、住宅、公共公益施設等の整備を促進するとともに、南口土地区画整理事業を早期に完了させ、旧南口バスロータリー跡地（58 街区）の活用を図ります。

【施策体系】



【施策展開のポイント】

■ 3 自転車をいかしたまちづくり

< 施策の目標 >

道路上における自転車通行区分の確立や自転車駐車場の整備を進め、自転車利用の利便性の向上を図り、健康づくりと環境にやさしい自転車利用を誘導します。また、自転車駐車場の適正配置や適正利用の推進等により放置自転車の減少を図ります。

< 取組の方向性 >

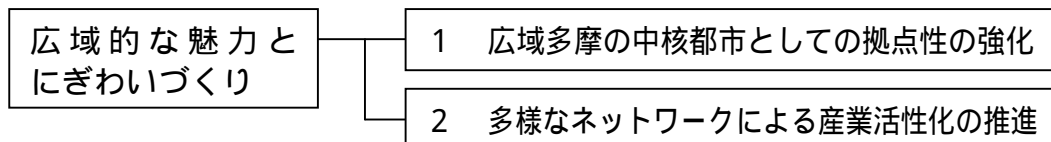
自転車利用環境の整備 < 抜粋 >

自転車利用の「はしる」「とめる」環境を整備するとともに、自転車で走りやすいルートや公共施設、観光スポット等から自転車駐車場・放置禁止区域等の情報を提供し、自転車利用の促進を図ります。

自転車適正利用の推進 < 省略 >

第 5 章 産業の振興

【施策体系】



【施策展開のポイント】

■ 1 広域多摩の中核都市としての拠点性の強化

< 施策の目標 >

諸機能のさらなる集積により、拠点性を高めるとともに、様々なパートナーシップによる地域経済の活性化に取り組み、広域多摩の中核都市を目指します。

< 取組の方向性 >

多様な産業の集積による拠点性の強化 < 抜粋 >

旧南口バスロータリー跡地（58 街区）や、北口活性化用地の利活用の具体化を検討するとともに、旧庁舎施設・敷地と市民会館との一体利用により、にぎわいづくりとまちの活性化に取り組みます。

■ 2 多様なネットワークによる産業活性化の推進

< 施策の目標 >

商業、農業、工業など、多様な産業ネットワークを活用し、様々なしかけを実践することによる相乗効果などにより、さらなる産業活性化を進めます。

< 取組の方向性 >

商・農・工・観の多様な連携による地域経済の活性化 < 省略 >

地域資源を活かした新たな都市観光の推進 < 省略 >

産業を支える多様な人材の育成 < 省略 >

2) 都市計画マスタープラン(改定)(平成 23 年 3 月)

都市計画マスタープランは、地域特性を踏まえたまちの将来像やまちづくりの方針等を具体的に示したものです。

社会環境の変化への対応

- 業務・商業等の諸機能の集積や都市農業などの市の持つ強みをさらに伸ばすとともに、文化・観光などとも連携し、商・工・農・観の融合した市の特性にあったまちづくりの推進

都市整備基本方針

- 都市づくりの基本理念
 - 「だれもが快適で暮らしやすく豊かな都市生活を営める都市」
 - 「魅力と活力ある多摩の拠点となる都市」
 - 「安全・安心な市民生活を支える都市」
- 将来都市構造
 - JR 立川駅周辺の拠点性をさらに高め、都市の骨格軸となる広域的な交通網の形成により、多摩地域での中心性の強化

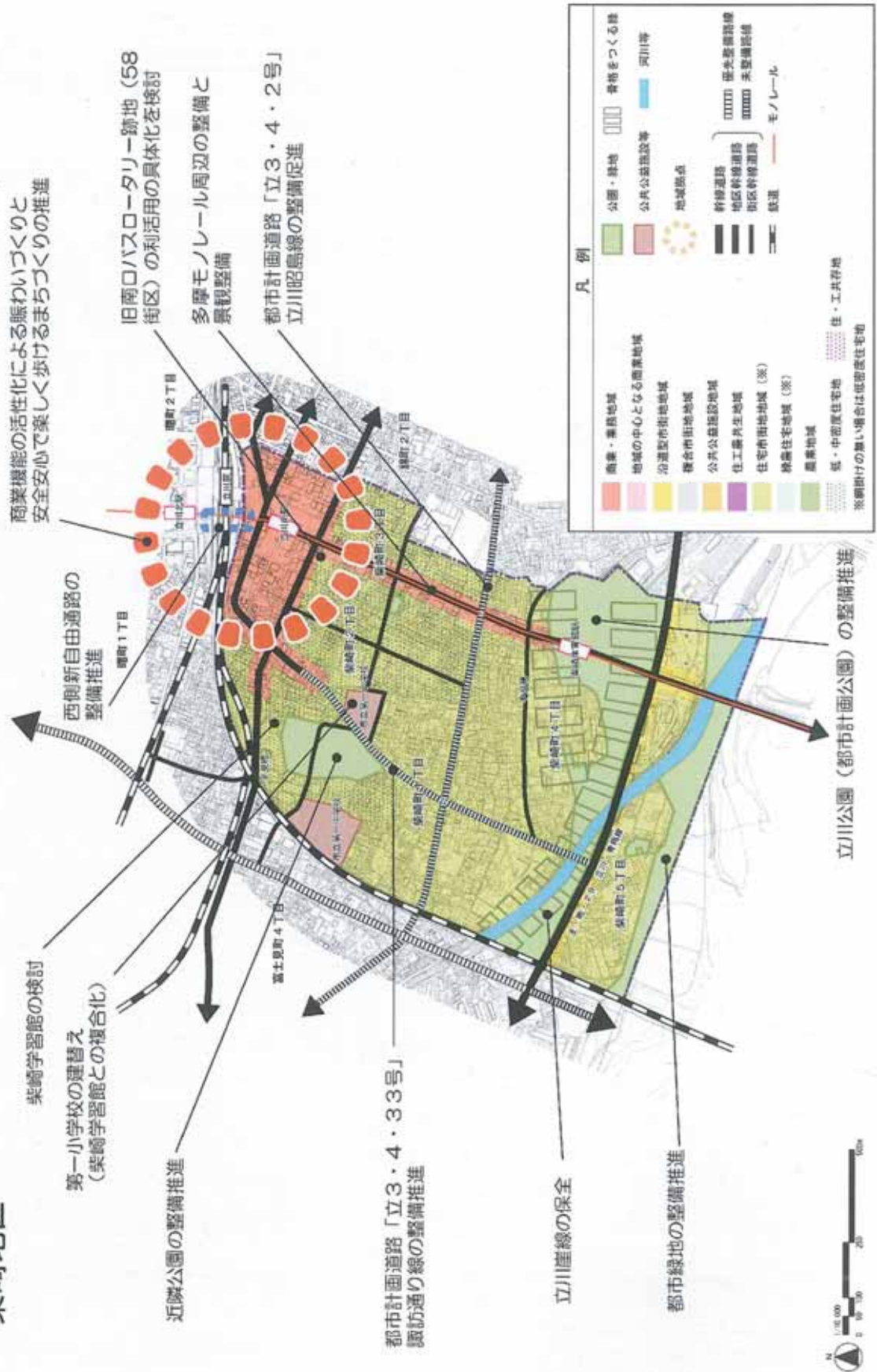
都市整備基本構想

- 土地利用の方針
 - 広域的な都心機能を担う地区として、JR 立川駅周辺と基地跡地地区における商業・業務系土地利用の推進と、多摩地域の文化・交流機能を担う新たな都市空間の創造

地域別構想

- 南地域
 - 駅周辺部の利便性の高い商業環境の活性化
 - JR 立川駅南口駅前では商業の活性化と駐車場・自転車駐車場の整備
 - 柴崎地区の JR 立川駅南口周辺は、南地域の顔として良好な街並みの形成、にぎわいと活力のあるまちづくりの推進

地区別構想図 柴崎地区



< 地域別構想（柴崎地区） >

3) 中心市街地活性化基本計画検討調査(平成 21 年 3 月)

この検討調査では、平成 12 年 3 月に策定された「中心市街地活性化基本計画」を踏まえ、今後の中心市街地活性化策についての方向性、事業方策等を示しています。

立川駅南口エリアのうち 58 街区周辺エリア(G、H エリア)については、次のように現況特性、エリアの役割などが整理されています。

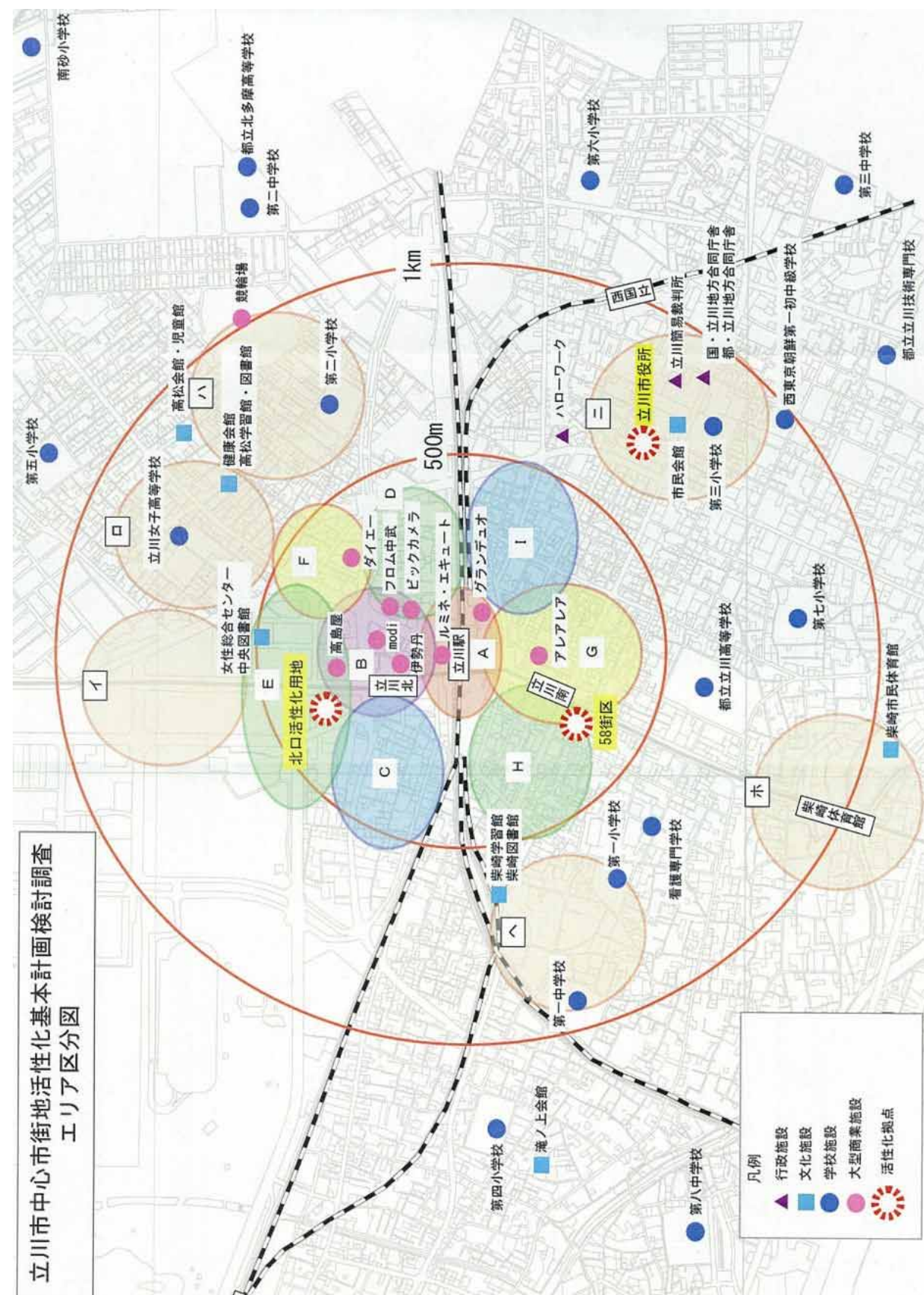
エリア		現況特性
南口	G	立川南口の玄関口となっている。 ペDESTリアンデッキが整備され、歩行者と自転車の分離が図られている。 歩道上の放置自転車が歩行者の妨げとなっている。 複数のパチンコ店、多数の飲食店舗が集積している。 58 街区は活性化の拠点としての活用が期待されている。
	H	商店街、オフィス、ビジネスホテル、予備校、住宅の混在がみられる。 5 つの商店街が分散して存在し、店舗の連続性が乏しい。 チャレンジショップが出店するなど、新たな動きがある。 歩道上の放置自転車が歩行者の妨げとなっている。 複数のパチンコ店、多数の飲食店舗が集積している。 58 街区は活性化の拠点としての活用が期待されている。

【Gエリア】

《エリアの機能・役割》 ○立川の南の玄関口 ○食のバザール、アミューズメント機能	《有効とされる活性化方策(想定)》 ○総合的な交通環境の改善に向けた計画策定と社会実験の実施 ・歩行者天国の実施とパークアンドライドの導入 ・違法駐車・駐輪車両禁止の徹底 ・共同荷捌き場の設置 ・一方通行等、車両の通行の制限 ・ペDESTリアンデッキ、歩道のバリアフリー化 など ○サインの設置 ○公開空地を活用したイベント開催 ○公開空地活用におけるルールづくり ○58 街区への活性化拠点施設の立地
《エリアの方向性》 ○立川の南の玄関口としてのイメージの向上を図る。 ○58 街区に南口地域の活性化の拠点を形成する。さらに、拠点から街への新たな回遊ネットワークを形成する。 ○立川駅西側新自由通路の整備と連携し、駅南北の交流促進を図る。 ○新自由通路等の公共空間を活性化に活用していく。 ○安全に安心して歩ける歩行空間を創出する。 ○放置自転車対策や違法駐車対策の強化を図るなど、交通環境の改善に取り組む。 ○商業・飲食ゾーンの防犯の向上を図る。	

【Hエリア】

《エリアの機能・役割》 ○活力ある若者文化の創出の支援 ○食のバザール	《有効とされる活性化方策(想定)》 ○立川の“食”の情報発信拠点の形成 ○チャレンジショップの出店支援 ○商店街の景観づくり、ファサード整備 ○テナントミックスによる飲食店街の形成 ○農・商・工の連携事業 ○総合的な交通環境の改善に向けた計画策定と社会実験の実施 ・歩行者天国の実施とパークアンドライドの導入 ・違法駐車・駐輪車両禁止の徹底 ・共同荷捌き場の設置 ・一方通行等、車両の通行の制限 ・ペDESTリアンデッキ、歩道のバリアフリー化 など
《エリアの方向性》 ○地元産品を活用した地産地消を展開する飲食店街を形成する。 ○沿道の景観づくりと一体化した道路整備を進める。 ○チャレンジショップの出店誘導と若者文化の創出を支援する。 ○裏路地へのオープン café の出店など、路地文化の育成を図る。	

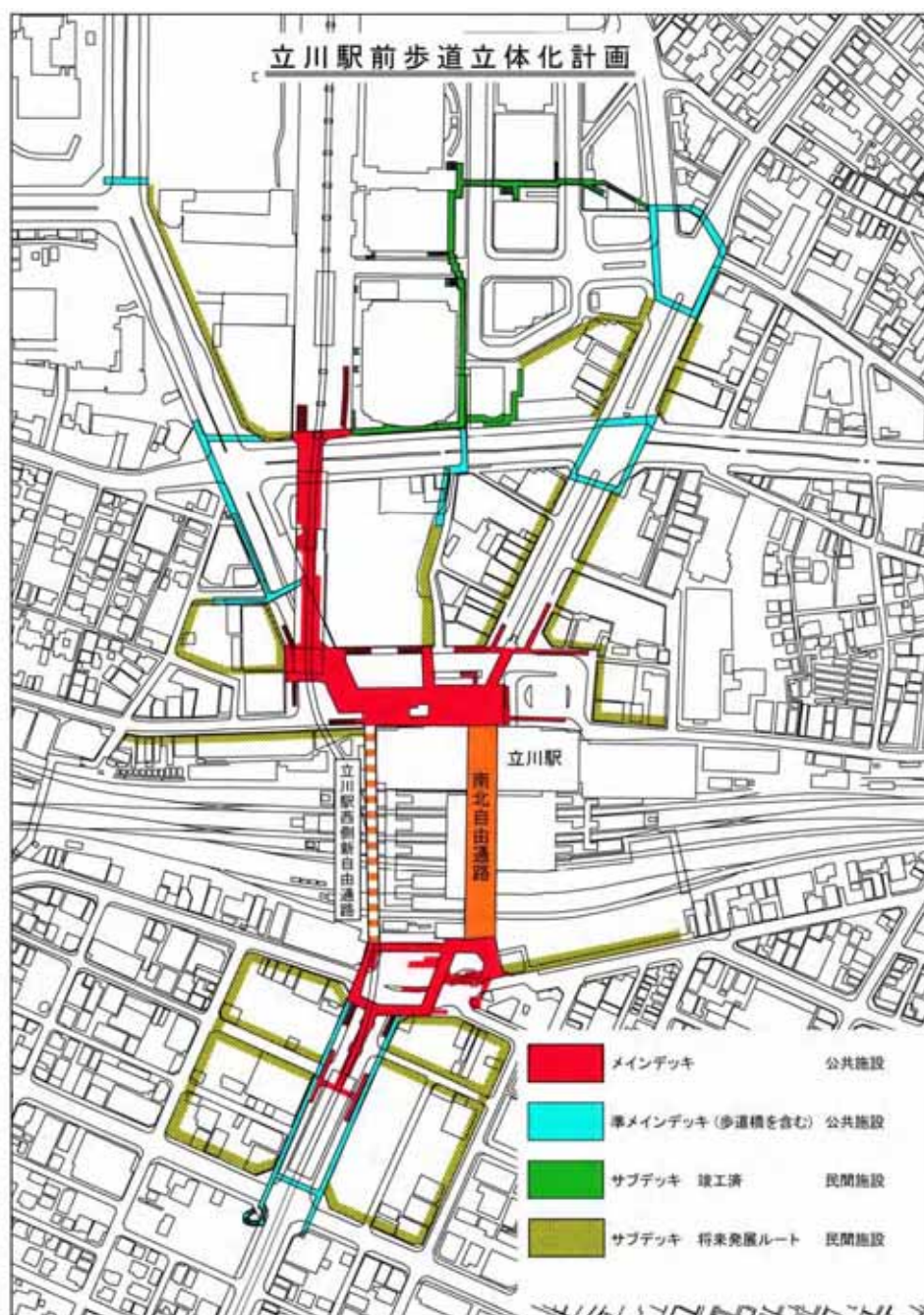


<エリア区分図>

4) 立川駅前歩道立体化計画（平成 5 年度）

立川駅周辺の歩行者交通に対応するために整備されたペDESTリアンデッキは、歩行者を駅前から周辺街区に誘導し、奥行きと広がりをもった活気ある街づくりに貢献するとともに、JR、モノレール、バス、タクシーなどの公共交通機関、駐車場、自転車駐車場、周辺商業・業務ビル等との相互の連絡をスムーズに行うことができます。

また、歩行者の安全性・回遊性の向上を図るため、駅西側に北と南のメインデッキを接続する新たな自由通路の整備計画があります。58 街区は、これらのメインデッキと準メインデッキで結ばれています。



5) 旧庁舎周辺地域グランドデザイン～施設の有効利用を越えて～(平成 22 年 5 月)

旧庁舎周辺地域グランドデザインの中では、「地域や施設をつなぎ人々を誘う歩行者ネットワークの形成」として、立川駅南口とこの地域をつなぐ回遊性ネットワーク軸を形成するとしています。58 街区はこの立川南通りに面して立地しています。



(2) 関連する施設計画

58 街区周辺において計画されているプロジェクトや東京都の施設整備方針など、58 街区の施設整備に関連する諸事項について整理します。

1) 58 街区周辺の施設計画

第 3 次生活圏の南地域においては、旧庁舎施設等、旧多摩川小学校、第一小学校建替、立川公園陸上競技場改修などの様々なプロジェクトが計画されています。ここでは、旧庁舎施設、旧多摩川小学校及び第一小学校のプロジェクトにおける導入機能を整理します。

旧庁舎施設

導入機能		事業内容
子育て支援	☐ 子ども家庭支援センター	地域組織化事業、啓発・情報発信、育児・親支援講座 ハイリスク家庭の養育支援、総合相談 子育てひろば事業 一時預かり事業
	☐ ファミリー・サポート・センター	会員の養成・啓発 カップリング訪問、管理業務
	☐ 子ども発達支援相談室	発達相談
	☐ 外来母子相談事業	3 歳未満クラス 3 歳～就学前クラス 保育園・幼稚園通園児クラス
教 育	☐ (仮称)教育相談室	教育相談、転学・入学・就学相談等
市民活動	☐ (仮称)市民協働センター	NPO 法人等が利用する事務所機能
文化・芸術	☐ 芸術活動の支援	若手芸術家等のアート作品の創作活動の場とし、3 箇月程度の長期間の貸出を行う。
	☐ 音楽活動等の支援	音楽活動等の練習場の提供を行う。
行政窓口等	☐ 文書等保管	行政文書の保管
	☐ 連絡所	執務スペース 書庫
		申請書等記入待合スペース
	☐ 事務室	勤労者福祉サービスセンター
集い交流	☐ (仮称)まんがばーく	市民が集い、憩うことが可能な用途（事業者提案）
その他	☐ 共用諸室	共用会議室（80 人、40 人、30 人各 1 室）
		共用相談室（20 m ² ×3 室、10 m ² ×1 室）
		交流スペース（共用）
		共用印刷室
	☐ 駐車場	旧庁舎施設等利用者の駐車場
広 場	☐ 広場	月 1 回以上の自主事業イベントの実施
		一定枠の市民主催のイベントの開催

旧多摩川小学校

導入機能	事業内容
□ たまがわ・みらいパーク	子どもを中心に様々な人が集い、楽しみ、学びあう場
□ サイクル・ステーション	多摩川のサイクリングロードに隣接しているロケーションを踏まえて、自転車をいかしたまちづくりの拠点となる施設
□ インキュベーション・センター	立川の産業・観光・文化・芸術・環境といった様々な分野において、若い世代の起業に向けたチャレンジを支援する施設

第一小学校

導入機能	事業内容
□ 第一小学校 < 建替 >	小学校を複合化することで、それぞれの施設が持つ機能を共有し、多彩な教育方法や学習形態などに対応を図るとともに、学校が地域コミュニティの拠点としての役割を持つことを視野に入れた、異世代間の交流を可能にする仕組みをつくる。
□ 柴崎学習館	
□ 柴崎学童保育所	
□ 柴崎図書館	



2) 東京都における施設整備の方向性

平成 23 年 12 月に東京都は、就労支援のひとつとして、58 街区において「多摩地域における就業支援拠点の整備」を行っていくものと発表しています。

<「2020 年の東京」への実行プログラム 2012>

多摩地域における就業支援拠点の整備

東京しごとセンター多摩の移転・整備

- ・多摩地域における就業支援機能を強化するため、東京しごとセンター多摩の移転に着手する。

- ・年次計画

平成 24 年度：基本計画策定

平成 25 年度：基本計画を踏まえた条件の整理調整

平成 26 年度：基本設計

「東京しごとセンター多摩」は、東京都が都民の雇用・就業を支援するために設置した“しごとに関するワンストップサービスセンター”であり、現在は東京都労働相談情報センター国分寺事務所の 2 階と地下 1 階部分の約 600 m²を借りて展開しています。そのほか、セミナーや説明会開催の際は、国分寺事務所の会議室を利用して行っています。



(2 階)

(3) 立川南口街づくり協議会からの提案書

立川南口街づくり協議会から提言された「58 街区」に関する提案書（平成 21 年 9 月）には、58 街区において次のような考え方が提案されています（以下は「提案書」から抜粋したものです）。ただし、この提案は、施設のすべてを市が所有することを前提としたものです。

単に市民のためだけではなく、多摩のフロントランナー「立川」の存在感をより高めることを目的に、次のような多摩都民（多摩地区に在住・在勤・在学する都民のことをいう。）のための広域集客施設を誘致・設置する。

- a) 東京都及び周辺地区の名産品を販売するパイロットショップやインフォメーションセンター（場合によると全国対象）
- b) 多摩地区の観光案内を含めた、総合インフォメーションセンター
- c) 立川市の農作物や物産等の直販店を兼ねた、パイロットショップ
- d) 広く多摩都民に開かれた多目的用途に使用できる、大中小の会議室・学習室
- e) 駅直近の文化施設としての 200 席程度の小ホール

都民、市民に対する行政サービスの拠点を設置する。

単に市民のための行政サービスではなく、多摩都民のための行政サービスの拠点施設を設置する。

地域の持続的な活性化策としてにぎわいの拠点

持続的かつ継続的に、まちのにぎわいや活性化を図れるような施設を設置する。（イベントスペースや小ギャラリー）

子育てひろば等の子育て支援施設を設置する。

立川市民が利用できる、子育て支援施設の設置。（内容は詳細検討が必要）

自転車駐輪施設を設置する。

立川駅周辺の違法駐輪を防ぐうえで、駐輪施設の設置は必要不可欠と考えますが、「58 街区」の土地利用が、単に駐輪施設のみを目的とした土地利用は南口全体の持続的発展のためには好ましく無く、上記のような集客力のある拠点施設との併設が望ましいと考えます。

4 . 市民・来街者の意識調査の結果概要

1) 市民・来街者の意識調査の実施概要

市民・来街者の意識調査（巻末資料参照）では、58 街区の魅力的な利活用の方向性を検討していくための基礎資料とするため、次のとおり市民へのアンケート調査及び立川駅南口のペDESTリアンデッキ周辺の市外からの来街者（デッキ利用者）を対象とした街頭インタビュー調査を行いました。

市民アンケート調査の実施概要

1.調査の目的

市民アンケート調査（郵送回収方式）は、立川駅周辺の利用状況と、当該敷地に導入すべき機能の要望について把握することを目的とする。

2.調査方法

- ・ 駅周辺(柴崎町・錦町)から 1,000 人、駅周辺以外の市全域から 1,000 人を無作為抽出
- ・ アンケート票の郵送・回収方式（料金受取人払い郵便）による調査

3.調査時期

- ・ 発送開始：平成 23 年 10 月 25 日
- ・ 回答期限：平成 23 年 11 月 11 日

4.回収数

- ・ 配布数：2,000 通（駅周辺地域 1,000 通、全市 1,000 通）
- ・ 回収数：746 通 - 有効回答数 742 通
- ・ 回収率：37.3%

街頭インタビュー調査の実施概要

1.調査の目的

街頭インタビュー調査は、立川駅南口のペDESTリアンデッキ周辺の市外からの来街者(デッキ利用者)300 人に対して、来街目的、当該日の回遊状況、立川駅周辺の利用状況、58 街区に導入すべき機能の要望について、街頭インタビュー方式にて把握することを目的とする。

2.調査方法

- ・ 立川駅南口のペDESTリアンデッキ周辺の市外からの来街者 300 人を対象
- ・ 街頭インタビュー方式（回答者自身がアンケート票に記入する。）調査
- ・ 平日、休日（各 1 日、各 150 人）における来街者を対象

3.調査日

- ・ 実施日：休日、平日の各 1 日
休日/平成 23 年 10 月 30 日（日）、平日/平成 23 年 11 月 1 日（火）
- ・ サンプル数：316 件（休日 177 件、平日 139 件）

2) 意識調査の結果概要

市民・来街者の意識調査の結果から、58 街区に求められている施設やその傾向について、次のとおり整理します。

< 58 街区に求められる施設とその傾向 >

< 凡例 >

駅周辺：柴崎町・錦町の住民

全市：駅周辺以外の住民

街頭：市外からの来街者

- 問 15 において、必要性が高いという回答は、以下の施設です。

買い物などに利用できる自転車駐車場（一時利用）

【駅周辺：1 位、全市：1 位、街頭：1 位】

通勤や通学などに利用できる自転車駐車場（定期利用）

【駅周辺：2 位、全市：2 位、街頭：2 位】

健康のためにスポーツや体操ができる施設

【駅周辺：5 位、全市：3 位、街頭：3 位】

立川や多摩の名産品を売るアンテナショップ

【駅周辺：4 位、全市：4 位、街頭：12 位】

証明書自動発行などの無人公共サービス施設

【駅周辺：3 位、全市：8 位、街頭：7 位】

- 反対に、必要性が低いという回答は、以下の施設です。

事務局などに適した長期間の貸し部屋

【駅周辺：23 位、全市：23 位、街頭：23 位】

打ち合わせなどに適した貸し会議室

【駅周辺：22 位、全市：22 位、街頭：22 位】

団体間の交流ができるホール・談話室

【駅周辺：21 位、全市：21 位、街頭：20 位】

料理教室や各種講座などが開催できる教室・実習室

【駅周辺：18 位、全市：19 位、街頭：21 位】

外から見ることのできるイベントスペース

【駅周辺：19 位、全市：20 位、街頭：16 位】

市民アンケート調査結果及び街頭インタビュー調査結果から、それぞれ次のように分析することができます。

< 市民アンケート調査結果より >

- 駅周辺以外の住民でも、よく使う交通手段として「自転車・バイク」と回答された方が多い。

【問 1 × 問 10 よく使う交通手段と居住地との関係より】

- よく使う交通手段を「自転車・バイク」以外とした方でも、「自転車駐車場」を必要だと思うと回答された方は多い。

【問 10 × 問 15 よく使う交通手段と駐輪場の必要性との関係より】

- 「アンテナショップ」や「健康・スポーツ施設」は、全ての年齢層において必要であるとの回答が多い。

【問 3 × 問 15 年齢層と施設の必要性との関係より】

- 「まちなか案内所」は、60 歳以上の年齢層において必要であるとの回答が比較的多く、25～39 歳の年齢層において少ない傾向が見られる。

【問 3 × 問 15 年齢層と施設の必要性との関係より】

- 「託児所」は、50～59 歳の年齢層において比較的少ない傾向が見られる。

【問 3 × 問 15 年齢層と施設の必要性との関係より】

< 街頭インタビュー調査結果より >

- 来街の交通手段を「電車」とした方でも、「自転車駐車場」を必要だと思うと回答された方は多い。

【問 10 × 問 15 交通手段と駐輪場の必要性との関係より】

市民アンケート調査及び街頭インタビュー調査の結果のうち、立川駅南口や周辺地域の活性化に重要なことの傾向(Q14)と、58 街区に必要な施設の傾向(Q15)について、調査結果の比較・分析を行った結果は次のとおりです。

Q14 .立川駅南口や周辺地域の活性化のためにはどのようなことが重要
だと思いますか。(該当するものに○ 項目ごとに1つ)

< 凡例 >

駅周辺：柴崎町・錦町の住民
全市：駅周辺以外の住民
街頭：市外からの来街者

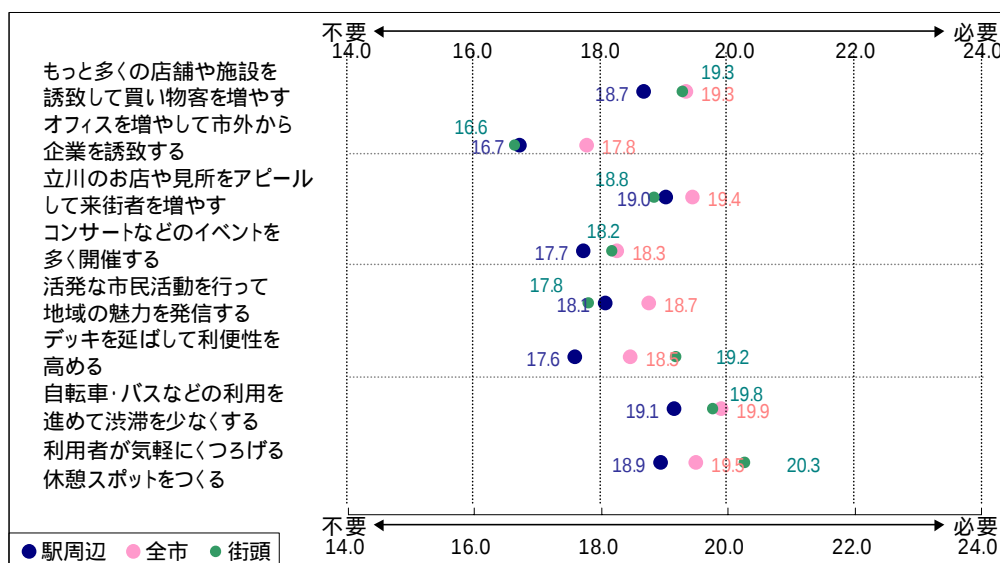
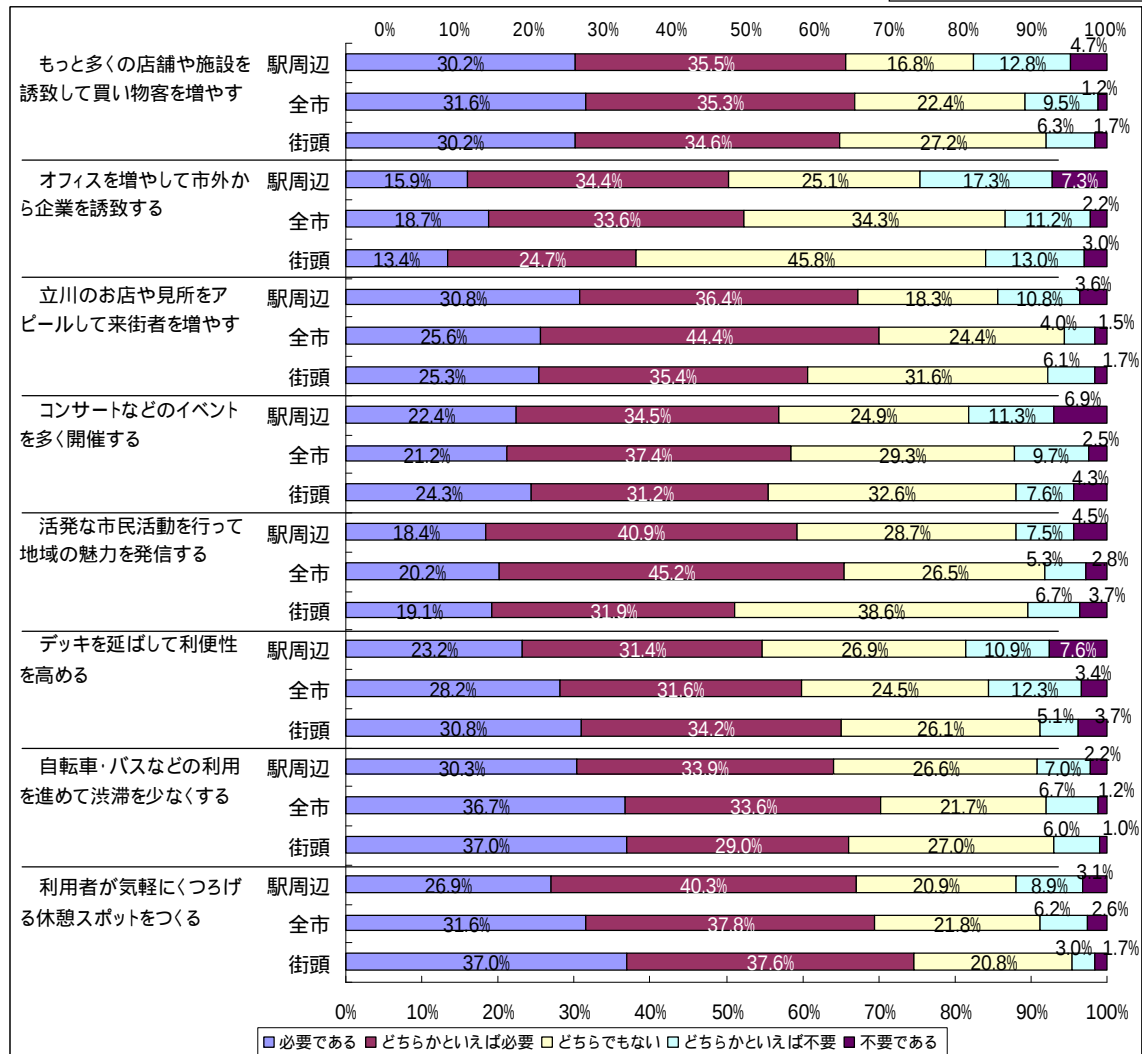


図 立川駅南口や周辺地域の活性化に重要なこと

駅南口や周辺地域の活性化を図るため、駅周辺の住民は、交通対策及びお店や見所のアピールをすること、駅周辺以外の住民や市外からの来街者は、これらに加え休憩スポットをつくることを重要としています。

Q15 . 58 街区にはどのような施設があるとよいと思われますか。施設ごとにその必要性についてご回答ください。（該当するものに○
項目ごとに1つ）

< 凡例 >

駅周辺：柴崎町・錦町の住民
全市：駅周辺以外の住民
街頭：市外からの来街者

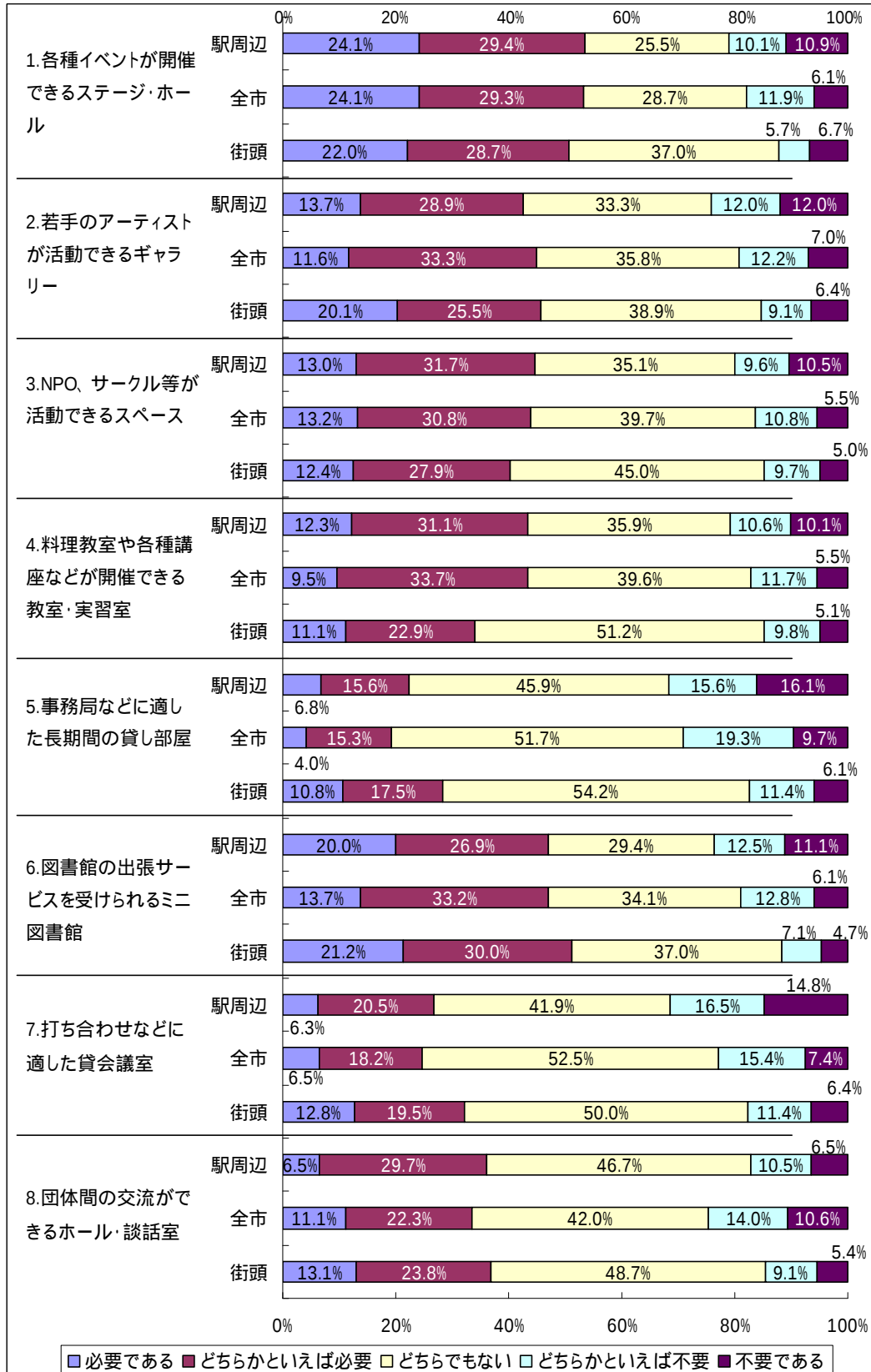


図 58 街区に必要な施設（1～8）

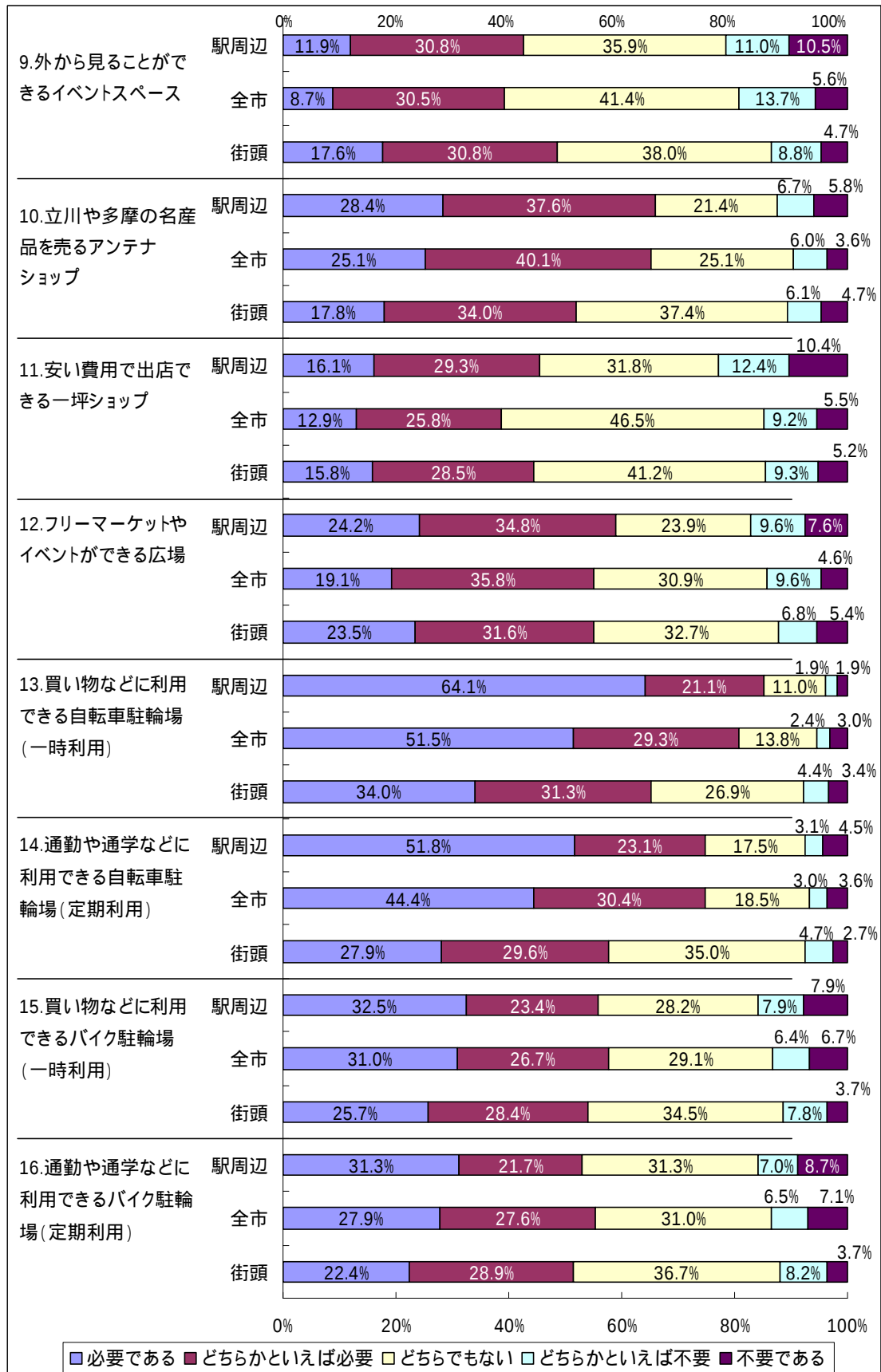


図 58 街区に必要な施設 (9～16)

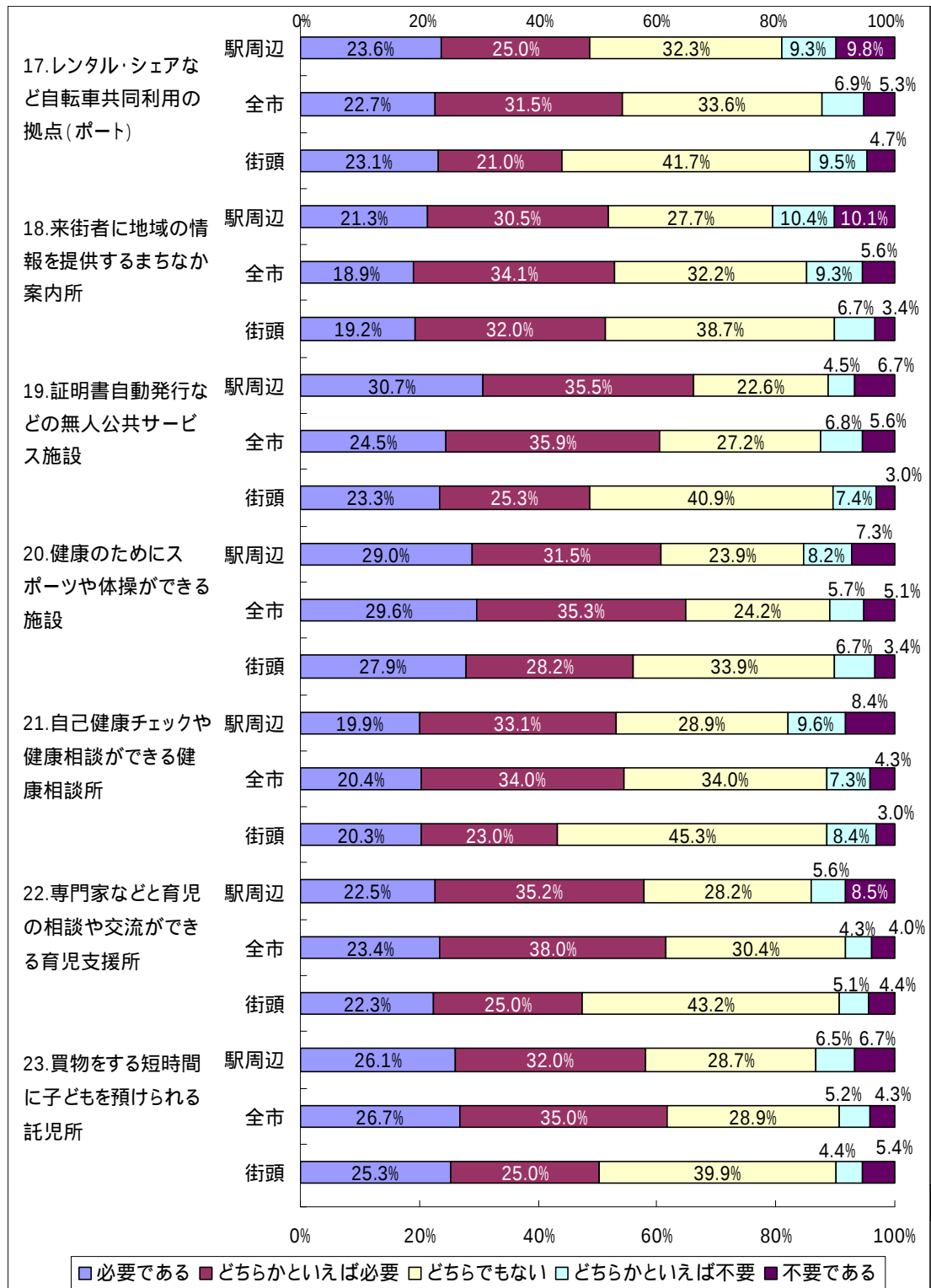


図 58 街区に必要な施設 (17 ~ 23)

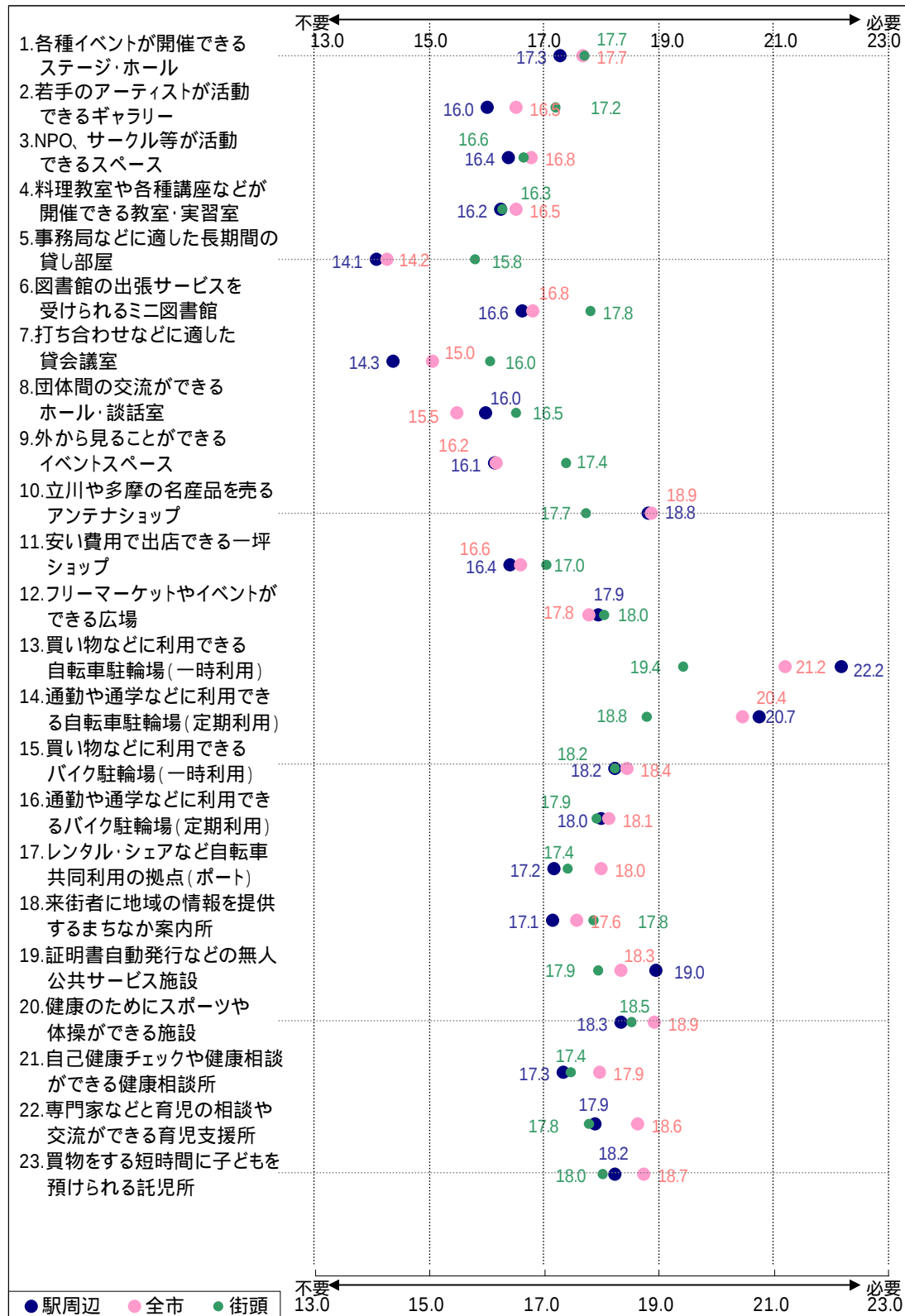


図 58 街区に必要な施設(点数)

58 街区に求める施設として、市民、市外からの来街者ともに要望が最も高かったものは自転車駐車場となっており、続いて駅周辺の住民は証明書等の発行の身近な行政サービス、アンテナショップ、スポーツ施設、駅周辺以外の住民はスポーツ施設、アンテナショップ、来街者はスポーツ施設の順となっています。

5 . 課題の整理

(1) 58 街区を取り巻く現状の課題

58 街区の現状や周辺状況、これまでの関連計画や調査などから、58 街区を取り巻く現状の課題について、次のように整理できます。

■ にぎわいづくり、まちの活性化の必要性

第 3 次長期総合計画 第 3 次基本計画における 58 街区利活用の位置付けより、旧庁舎施設・敷地と市民会館の一体利用とともににぎわいづくり、まちの活性化に取り組むことが求められており、都市計画マスタープランにおいても、立川駅南口周辺はにぎわいと活力のあるまちづくりを目指すことになっています。

■ 立地の良さを活かした利活用の必要性

ペDESTリアンデッキの南端に接続する立地の良さを活かした利活用が望まれます。また、交通の結節点である立川駅の特性を活かした利活用（立川市や多摩地域を含む広域圏の観光情報発信など）を検討することも必要です。

■ 自転車駐車場の必要性

現在暫定的に有料自転車駐車場として利用していますが、ペDESTリアンデッキと直結しているという立地条件の良さもあり、高い利用率を保っています。近接する 61 街区の無料自転車駐車場で担っている機能も含め、今後も自転車駐車場を継続して確保していく必要があります。

(2) 調査等から導かれる課題

調査等から 58 街区に必要とされる機能や周辺施設との関係から、課題を整理します。

1) 市民・来街者の意識調査

市民・来街者の意識調査において、58 街区に必要性が高い又は必要性が低い施設は次のようになっています。

この結果より、自転車駐車場、アンテナショップや証明書自動発行などの無人公共サービス施設等、市民の身近なサービスが受けられる機能が望まれていることがうかがえます。

■ 必要性が高いという傾向が見られた施設

買い物などに利用できる自転車駐車場（一時利用）
 通勤や通学などに利用できる自転車駐車場（定期利用）
 健康のためにスポーツや体操ができる施設
 立川や多摩の名産品を売るアンテナショップ
 証明書自動発行などの無人公共サービス施設

■ 必要性が低いという傾向が見られた施設

事務局などに適した長期間の貸し部屋
 打ち合わせなどに適した貸し会議室
 団体間の交流ができるホール・談話室
 料理教室や各種講座などが開催できる教室・実習室
 外から見ることのできるイベントスペース

2）立川南口街づくり協議会からの要望

立川南口街づくり協議会からは、多摩地区の都民のための広域集客機能や、地域活性化に寄与するにぎわいの拠点とすることが望まれています。

次のような多摩都民のための広域集客施設を誘致・設置する。

- a) 東京都及び周辺地区の名産品を販売するパイロットショップ等
- b) 多摩地区の観光案内を含めた総合インフォメーションセンター
- c) 立川市の農作物や物産等の直販店を兼ねたパイロットショップ
- d) 多目的用途に使用できる大中小の会議室・学習室
- e) 駅直近の文化施設としての 200 席程度の小ホール

都民、市民に対する行政サービスの拠点を設置する。

地域の持続的な活性化策としてにぎわいの拠点

子育てひろば等の子育て支援施設を設置する。

自転車駐輪施設を設置する。

3) 周辺施設

58 街区施設はその施設を単体として考えるのではなく、南口全体を面として捉え、東京都の導入機能との相乗効果や南口にある施設と連携し、回遊性を高めることができる機能が望まれます。

また、58 街区に導入する機能と、周辺のプロジェクトに導入される機能や近隣にある公益的施設との重複、民間施設との競合も避け、機能分担を検討する必要があります。ただし、その機能を分散配置することでそれぞれに相乗効果を生むことなど、複合的な視点で検討する必要があります。

さらに、現在「南口ファーム」において導入されている大町市のアンテナショップ「アルプスプラザ」などの実績も踏まえて、58 街区の施設に導入する機能についても検討する必要があります。

■ 相乗効果を図ることが必要な施設・機能

○ 東京しごとセンター多摩(就業支援機能)

< 東京都 >

■ 機能分担の検討が必要な施設・機能

○ 子育て支援
○ 教育相談
○ 文化・芸術支援
○ 行政窓口
○ 集い・交流

旧庁舎施設にて導入予定

○ サイクル・ステーション
○ インキュベーション・センター

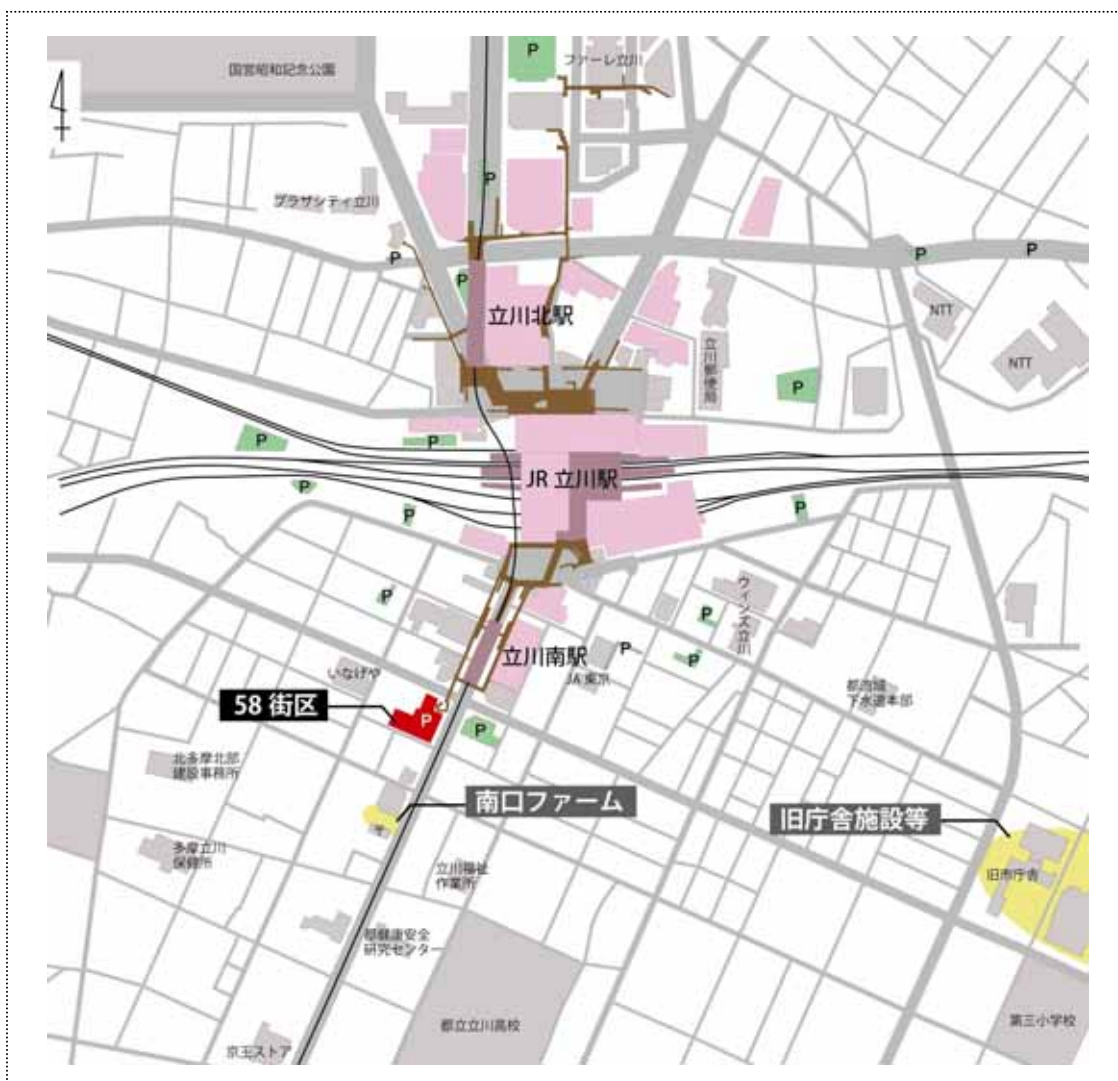
旧多摩川小学校にて導入予定

■ 機能集約の検討が必要な施設・機能

南口ファーム

○ みどりっ子
○ アルプスプラザ

■ 58街区周辺の施設配置状況



6．導入機能の検証

「58 街区利活用検討会」では、58 街区に導入すべき機能に関して、関連計画やアンケート内容、課題等を踏まえて検討してきました。ここでは、58 街区の立地特性等から必要とされる機能について、検討した内容を整理します。

1) にぎわい機能

観光の情報発信

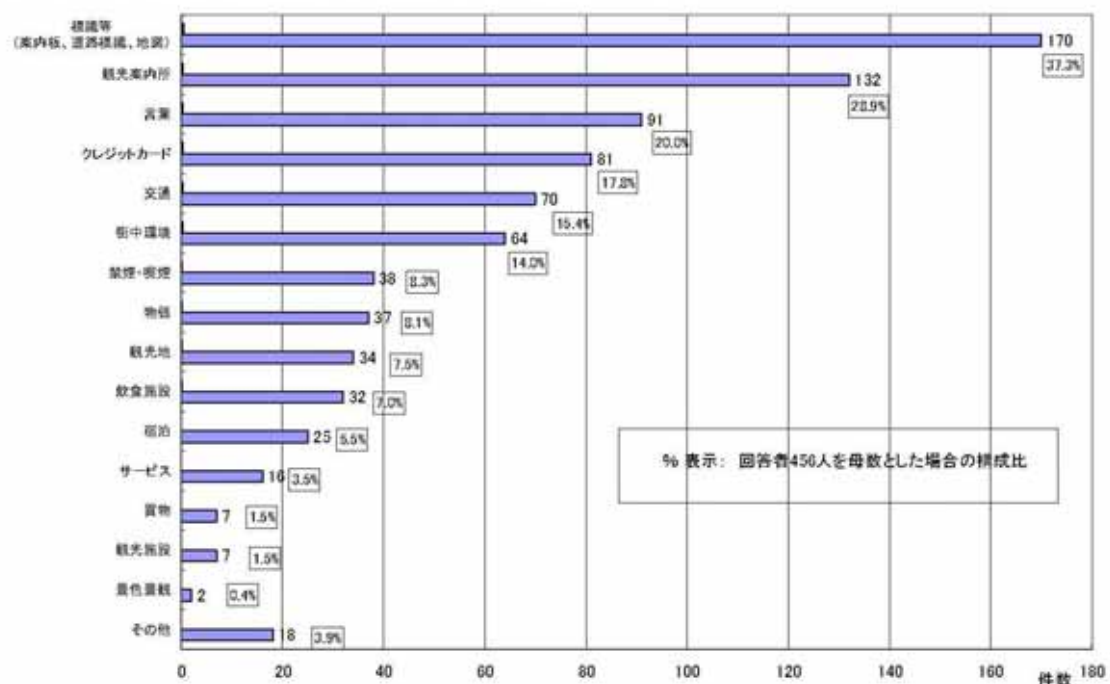
東京都では「2020 年の東京」のなかで、外国人観光客を増やすという計画があります。市単独での観光案内では弱いので、多摩の入口として、多摩地域の観光情報発信拠点を東京都と連携して市内に設置し、多摩地域の観光振興を図っていくことが望まれます。そのためには、東京都に積極的に導入を働きかける必要があります。

■観光に係る東京都の施策

東京都は、「2020 年の東京」への実行プログラム 2012 の「産業力と都市の魅力」を高め、東京を新たな成長軌道に乗せる」の中で、「東京の多彩な魅力を演出・発信し、国内外から来訪者を呼び込む」という施策を掲げており、これにより「2020 年の東京の姿として、年間 1,500 万人の外国人旅行者が訪れる世界有数の観光都市になっている。」としています。

その一方で、訪日外国人個人旅行者が日本旅行中に感じた不便・不満調査報告書（平成 21 年 7 月 JNTO）の外国人旅行者の不便・不満の 1 位は標識等（37.3%）、2 位は観光案内所（28.9%）、3 位は言葉（20.0%）となっています。

<不便・不満の分野別件数および構成比（回答者人数ベース）>



東京都はこれからの政策展開のひとつとして、旅行者の受入体制の整備を掲げており、『ICT()技術による情報提供など新たな技術の活用と日本人ならではの「おもてなしの心」の両輪で、旅行者の目線に立った受入体制を推進する』としています。

ICT・・・Information and Communication Technology の略。情報や通信に関する技術の総称

産業の魅力発信

産業の魅力発信や中小企業等の情報発信の機能は産業支援につながります。そのほかにも「産業サポートスクエア・TAMA」などとの連携も考えられます。



< 産業サポートスクエア・TAMA >

現在、南口商店街の空き店舗において展開している「観光(地域ブランド)」、「農業」、「若年者就労支援」事業

地域ブランドや観光、地域産業の情報発信機能が 58 街区に導入されれば、地域情報発信やにぎわい創出の拠点となります。農業については、地域ブランドの情報発信の一環としても捉えることができます。この場合、農業と観光を一体とした機能の集約も可能となります。

若年者就労支援については、人材育成やネットワークの構築、若者の自立支援など、青少年も含めて展開しています。東京都の就労支援機能との連携により、さらなる展開の可能性が広がることも考えられます。

■南口ファーム

58 街区の南側には、農産物直売所「みどりっ子」、大町市アンテナショップ「アルプスプラザ」、若年者就労支援施設「たちかわ若者サポートステーション」の 3 つの機能を有する「農商連携型空き店舗活用事業 南口ファーム」が開設されています。

農産物直売所「みどりっ子」は、連日 300～400 名の利用で賑わっています。生産物を提供している農家(出荷者)も、当初の 60 軒程度から現在は 100 軒程度まで増えてきています。

また、大町市のアンテナショップ「アルプスプラザ」では、大町市の物産を中心に、長野県内の土産品や加工食品（お焼き、蕎麦）酒なども販売しており、あわせて観光案内も行っています。一日の利用者は 40 人程度ですが、立川の観光情報発信や物産販売機能を導入したコラボレーションも試行されています。

さらに、若年者就労支援施設「たちかわ若者サポートステーション」では、立川駅北口に活動拠点がある NPO 法人「育て上げ」ネットが運営しており、若者の就労相談や農業体験などが行われています。一日の利用者は 30 人程度です。



■ アンテナショップ

○ 平成 23 年度 自治体アンテナショップ実態調査 ＜財団法人地域活性化センター調べ＞

平成 23 年 10 月 1 日現在、都内にはアンテナショップが 53 店あります。このうち都道府県が設置したものは 37 店、市町村が設置したものは 16 店となっており、この中には自治体が共同で出店しているものもあります。

この調査によると、開設の主な目的としては、特産品の PR（52 店）が最も多く、地域情報発信（マスコミ等）（45 店）、特産品の販路拡大（44 店）、観光案内・誘客（43 店）、自治体の PR（40 店）となっています。また、事業内容としては、物産販売（52 店）が最も多く、観光案内（41 店）、イベント開催（32 店）と続いています。なお、多摩地域には 7 店あり、都内全体の約 13 パーセントです。

< 多摩地域のアンテナショップ >

都道府県	自治体名	アンテナショップ名	所在地	事業内容
北海道	大空町	大空町アンテナショップ ほのか稲城店	稲城市	物産販売・飲食施設・観光案内・イベント開催
東京都	武蔵野市	アンテナショップ麦わら帽子	武蔵野市	物産販売
東京都 長野県	多摩市 富士見町	多摩市 & 長野県富士見町共同アンテナショップPonte	多摩市	物産販売・観光案内
新潟県	燕市	えちご燕物産館町田店	町田市	物産販売・観光案内・イベント開催
長野県	大田市	信濃大町アルプスプラザ	立川市	物産販売・観光案内
長野県	木島平村	調布 & 木島平 食の駅 新鮮屋	調布市	物産販売・観光案内・イベント開催
高知県	高知県	高知屋	武蔵野市	物産販売

2) 多目的ホール

駅周辺には、ホテルの会議室や民間ビルにもホールなどがあるため、多目的ホールは周辺施設と競合する可能性があります。そこで、58 街区の多目的ホールについては、周辺施設との連携による利用を想定し、イス等の設備を可変的に自由に使えるようにすることや、東京都と共用スペースとして利用することなどを協議していく必要があります。

3) 健康のための施設

南口には民間のスポーツジムが充実しているほか、市施設の柴崎体育館もあります。このことから、アンケートで要望のあった健康のための施設の公共による整備は必要ないと考えます。

4) 子育て支援機能

子育て支援については、買い物の際の活用というニーズはあります。旧庁舎にも子育て支援機能を導入しているので、58 街区ではちょっとした休憩場所、オムツ替えコーナー、授乳室、育児情報ボードなどの機能を持たせて、旧庁舎に誘導するような位置付けとします。

5) 自転車駐車場

58 街区は、現在約 1,700 台規模の自転車駐車場があります。また、自転車利用者は駅から自転車駐車場の間や自転車駐車場から家までの間の店舗で買い物をすることも考えられるので、集客施設としても自転車駐車場の必要性があります。なお、具体的な収容台数については、南口を面として捉え自転車駐車場の供給と需要のバランスを考慮して判断することが必要です。

6) 駐車場

附置義務の駐車場については、58 街区の敷地形状からすると車の出入り場所が限られる可能性があります。国の都市計画小委員会において、中心市街地では隔地駐車場を活用していく方向性が示されているため、その点も考慮して判断していくことが必要です。ただし、荷捌き場と身障者用駐車場は、敷地内に設ける必要があります。

7．基本構想

(1) コンセプト

これまでの各種検討の経緯、58 街区の位置付けなどを踏まえ、58 街区に導入すべき機能の考え方を整理すると、次のようになります。

- 南口のにぎわいづくりやまちの活性化
- ペDESTリアンデッキの利便性を活かした回遊性の創出
- 自転車駐車場の確保

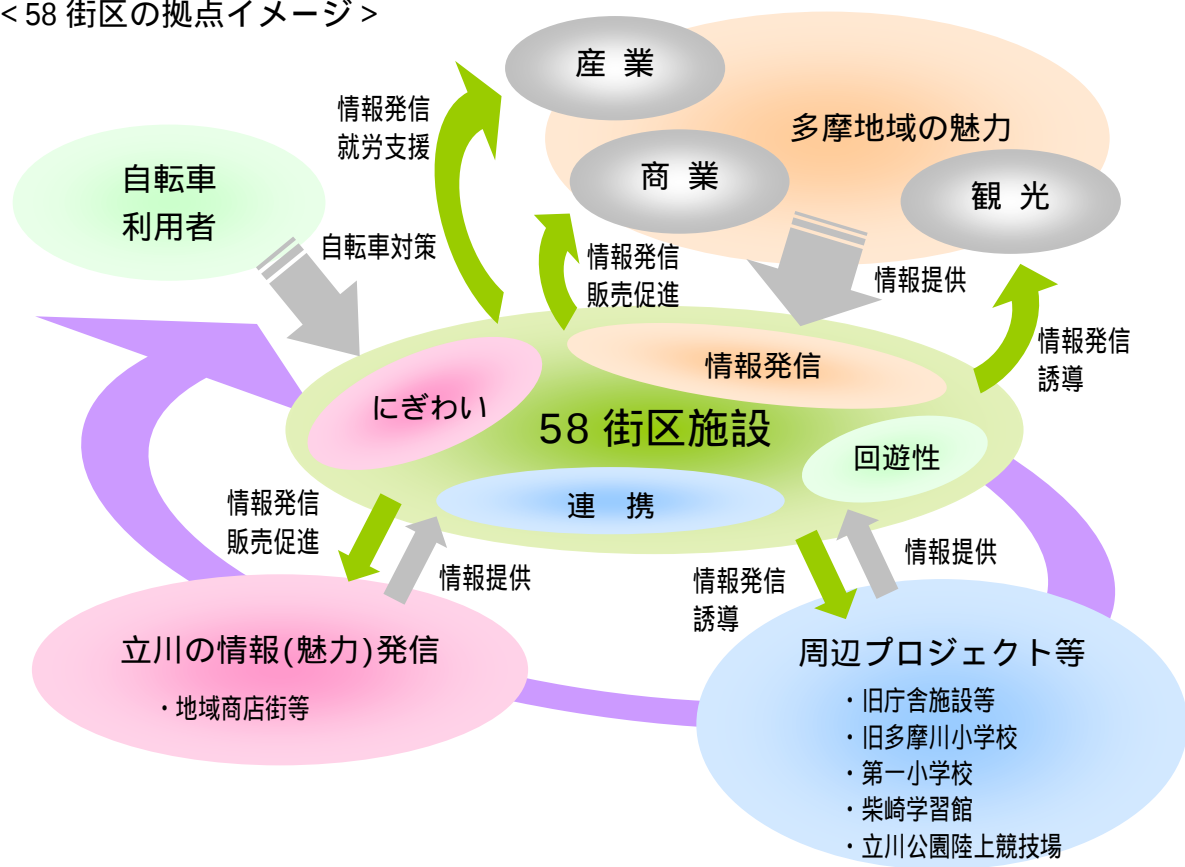
これを実現するために、旧庁舎施設等などの周辺プロジェクトとともに地域を面として捉え、58 街区を活用していくこととし、この活用にあたっては、次のコンセプトとします。

**立川駅南口の新たなにぎわいと
多摩の魅力発信拠点**

そして、このコンセプトを実現するためのキーワード（拠点のあり方）を次のとおりとします。

- 「周辺プロジェクトとの連携拠点」
～ 周辺計画との相乗効果が得られる機能～
周辺プロジェクトに導入される機能との分担を行うとともに、相乗効果が得られる機能
- 「多摩地域や南口の情報発信拠点」
～ 立地にふさわしい機能～
立川駅から至近距離に位置していることから、中心市街地の立地に相応しい、また、高い効果が見込める機能
- 「にぎわいの拠点」
～ 地域活性化に必要な新たな機能～
周辺プロジェクトと連動し、周辺地域や商店街を活性化することができる機能
- 「回遊性の拠点」
～ ペDESTリアンデッキの利便性を活かした機能～
立川駅周辺に整備されているペDESTリアンデッキの利便性を活かし、かつデッキの利用を促進する機能

< 58 街区の拠点イメージ >



(2) 導入機能の設定

「立川駅南口の新たなにぎわいと多摩の魅力発信の拠点」としての 58 街区のあり方を踏まえ、58 街区施設に導入する機能を設定します。また、導入機能を具体化した場合の施設の検討もあわせて行います。

1) 導入機能の検討

● 周辺施設の情報発信機能

観光パンフレットや情報端末などにより地域情報、周辺施設情報の提供などを行う情報発信施設の設置

● 周辺施設への誘導機能

周辺施設の活動やイベントなどの情報提供を行うとともに、旧庁舎施設等で予定している文化・芸術行事のプレイベントなども行えるイベントスペースの設置

- 多摩地域の魅力発信機能

交通の結節点である特性を活かし、多摩地域の観光、産業、商業などの広域情報を発信し、多摩地域の魅力を紹介する多摩地域の情報発信施設の設置

- 南口の魅力発信機能

立川駅南口周辺の地域情報を発信し、地域の魅力を紹介する南口の情報発信施設の設置

- 地域特産品等販売機能

観光協会の立川推奨認定品や多摩地域ブランド品の紹介・販売など、地域の農産物の加工品等の直売を行う地域特産品等直売所の設置

- 自転車駐車対策機能

現在、有料自転車駐車場として多くの利用があり、今後も地元住民や立川駅利用者の要望、需要に応えながら、これからの自転車対策などに寄与していくため、恒久的な自転車駐車場の設置

- 多目的利用空間機能

広域的な集客も視野に入れ、東京都の就労支援機能と連携したビジネスマッチングなど、にぎわいの創出にもなる様々なイベントに対応できる多目的スペースの設置（東京都との共用化も今後検討します。）

- 憩いの空間機能

市民サービスの向上、施設の利便性向上を図るため、多目的トイレや授乳室などを設けたゆっくりとくつろげるまちのサロンのようなスペースの設置（東京都との共用化も今後検討します。）

2) 導入機能を具体化した場合の施設検討（シミュレーション）

周辺施設の情報発信機能

地域情報、周辺情報の提供などを行う情報発信施設は、観光パンフレット置き場や ICT を活用したタッチパネル式の情報端末機の設置などを想定します。

周辺施設への誘導機能

周辺施設への誘導は、ICT も活用した地図案内等による「まちの案内所」を想定します。

多摩地域の魅力発信機能

多摩地域の魅力発信は、観光パンフレットや地域産業の紹介パンフレットなどの置き場、ICT を活用したタッチパネル式の情報端末機の設置などを想定し、周辺施設や地域の情報発信施設との一体的な運用を図ります。

南口の魅力発信機能

南口の魅力発信は、地域商店街の紹介チラシ置き場、クーポン券等の配布場所などを想定します。多摩地域の魅力や周辺施設の情報などとあわせて提供するものとします。

上記 から までの機能は、情報発信施設として集約し、その規模は次のように想定します。

○ 想定面積：30～60 m² （情報発信施設として集約を図ります。）

地域特産品等販売機能

地域特産品等直売所は、地域ブランド品の展示・販売、地域の農産物加工品等の直売を行う物販施設を想定します。あわせてアンテナショップの併設も想定します。

○ 想定面積：100～150 m²

自転車駐車対策機能

現在の自転車駐車場は、約 1,700 台を収容できる規模を有しています。自転車収容台数については、今後自転車総合計画との整合を図るものとし、自転車収容方法（平面駐車、立体駐車等）の検討とあわせ、その規模を設定していきます。



< 平面駐車タイプ（ラック式） >



< 立体駐車タイプ（地上式、地下式） >

- 想定面積：2,400 m²
1.2 m² / 1 台として、 2,000 台の場合：2,400 m²

多目的利用空間機能

多目的利用空間は、広域的な集客も視野に入れ、様々なイベントに対応できる多目的スペースを想定します。

ビジネスマッチングなどの東京都の就労支援機能と連携したイベントや、旧庁舎施設等で予定している文化・芸術行事のプレイベントなど、にぎわいの創出を含めた多目的スペースとします。

200～300 人程度が参加するイベントに対応した規模として想定します。なお、東京都との共用化の方向性についても今後検討していきます。

- 想定面積：200～400 m² （東京都との共用化を検討します。）

憩いの空間機能

憩いの空間は、市民サービスの向上、施設の利便性向上を図るための施設を設けた空間とします。その空間は、多目的トイレや授乳室などを設けたゆっくりとくつろげるサロンのようなスペースとします。

多目的トイレや授乳室、市民サロンなどの事例より、その規模は次のように想定します。なお、東京都との共用化の方向性についても今後検討していきます。

- 想定面積：50～100 m² （東京都との共用化を検討します。）

8．導入後の効果予測

(1) 導入機能によるデッキ通行量の将来推計

市が 58 街区に導入する機能によって、接続するペDESTリアンデッキの通行量(現在 : 平日 1,955 人、休日 1,766 人) がどのように変化するかを推計します。

導入する機能ごとに、その施設への来館者数(入り込み客数) 将来的な人の流れを次のように推計します。

情報発信施設

他都市では、地域情報や観光情報、市民活動情報などを紹介するとともに、休憩スペースなどを設けた「まちなか案内所」の事例がいくつかあり、1,500 ~ 2,500 人 / 月の来館実績があります。このまちなか案内所を類似事例として、約 2,000 人 / 月が来館すると推計します。そのうち、デッキ上を利用する人は、通行量調査のデッキ上と歩道の割合(デッキ上 : 15%、歩道 : 85%) を考慮し、次のように推計します。

- 来館者数 : 2,000 人 / 月 = 平均 67 人 / 日
- デッキ通行量推計 : $67 \text{ 人 / 日} \times 15\% \times \text{往復} = \underline{20 \text{ 人 / 日}} \text{ 増加}$

地域特産品等直売所

現在、58 街区の南側にある「南口ファーム」では、農産物直売所「みどりっ子」で 300 ~ 400 人 / 日、大町市のアンテナショップ「アルプスプラザ」で 40 人 / 日の利用があります。さらに、今後立川の特産品の開発・販売が促進される点も見込み来館者数を推計します。

- 来館者数 : 平均 450 人 / 日 (平均 350 人 / 日 + 40 人 / 日 + 新たな特産品等の販売 60 人 / 日)
- デッキ通行量推計 : $450 \text{ 人 / 日} \times 15\% \times \text{往復} = \underline{135 \text{ 人 / 日}} \text{ 増加}$

自転車駐車場

現在、自転車駐車場として利用しており、58 街区へ機能を導入しても将来的には通行量は同等と推計します。

- デッキ通行量推計 : 増減なし

多目的スペース

月に 10 回程度（年間休日数 / 年間日数）100～200 人程度が参加するイベントが行われると想定して来館者数を推計します。

- 来館者数　：　平均 150 人 × 10 回 / 月　＝　平均 50 人 / 日
- デッキ通行量推計　：　50 人 / 日 × 15 % × 往復　＝　14 人 / 日 増加

サロンスペース

サロンスペースを約 80 m²と想定すると、サロンスペースの収容可能人数は、約 25 人（80 m² ÷ 3.0 m² / 人（1 人あたりの使用面積））となります。休憩や授乳等の利用のため来館するものと想定し、1 日に収容可能人数の 3 回転分の人数が来館するとして、その来館者数がデッキ上の通行量の増加分と推計します。

- 来館者数　：　収容可能人数 25 人　×　3 回転 / 日　＝　75 人 / 日
- デッキ通行量推計　：　75 人 / 日 × 15 % × 往復　＝　23 人 / 日 増加

上記より、58 街区への施設整備により増加するデッキ上の通行量は、次のように算定されます。

- デッキ通行量将来推計（増加）　：　約 190 人 / 日
約 5,700 人 / 月
約 68,400 人 / 年

（ 2 ）回遊性の将来推計

58 街区の施設整備後のデッキ通行量の将来推計では、現状の通行量から約 1 割の増加が見込まれます。58 街区施設は、立川駅南口の準メインデッキの最南端に位置することから、約 1 割の通行量増加がデッキ全体の周遊を増加させるものと推計します。

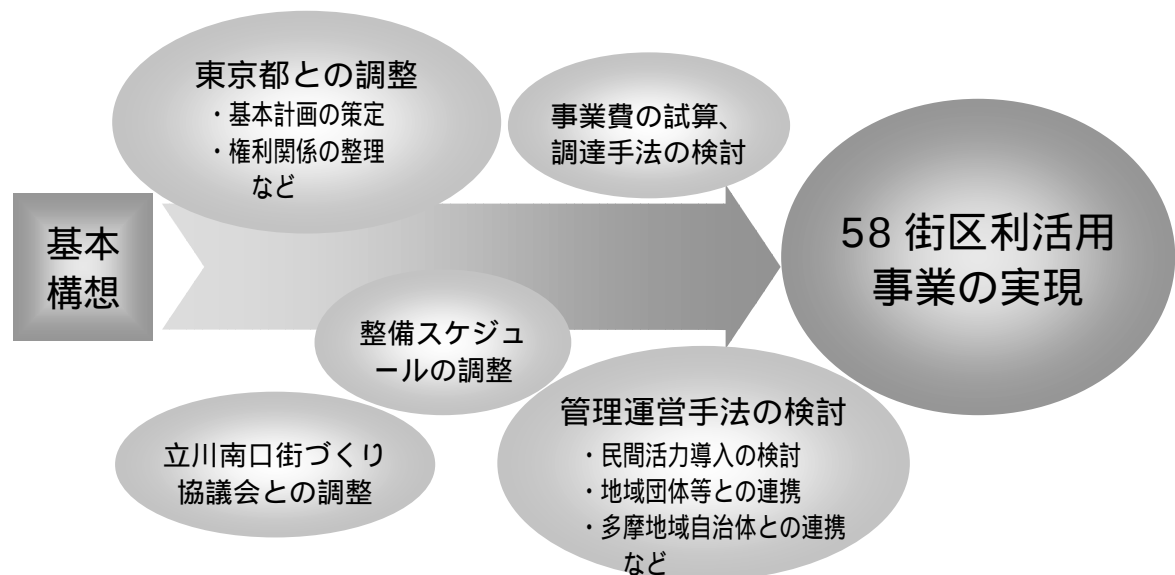
また、58 街区施設からの情報発信により、旧庁舎施設等などの周辺施設や地域の商店街へ誘導することも想定すると、立川駅南口地域の回遊性も同様に増加すると想定できます。

- 回遊性の将来推計（増加）　：　約 1 割増加

9 . 事業実現に向けて

今後、市が導入する機能をまとめた 58 街区利活用基本構想を基に、東京都と協議を行いながら、58 街区利活用の実現に向けて事業を進めます。

平成 24 年度には、東京都と基本計画の策定に取り組み、この検討の中で整備スケジュールの調整や、事業費の試算等も行っていきます。その後、施設整備後の管理運営についても検討を進め、東京都や地域と協力しながら、南口の活性化拠点として、また多摩地域の広域の拠点として、多くの来街者が利用するにぎわいの起点となる施設を目指します。



巻末資料

- ・ 市民アンケート調査 調査票
- ・ 街頭インタビュー調査 調査票

このアンケートで「立川駅周辺」とは、図の一点鎖線で囲まれた範囲を指します。

58 街区

建築物・施設敷地
P 自転車等駐車場

① エキュート立川	⑧ 立川モディ
② グランデュオ	⑨ アレアレ 1・2
③ ルミネ立川店	⑩ フロム中武
④ 第一デパート	⑪ ダイエー立川店
⑤ 伊勢丹立川店	⑫ 立川南口駅前ビル
⑥ パークアベニュー	⑬ ピックカメラ立川店
⑦ 高島屋立川店	⑭ 映画館（シネマシティ、シネマツ）

あなた自身のことについてうかがいます。(該当する番号を○で囲んでください)

Q1. あなたのお住まいをご回答ください。

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 富士見町 | 2. 柴崎町 | 3. 錦町 | 4. 羽衣町 |
| 5. 曙町 | 6. 高松町 | 7. 泉町 | 8. 緑町 |
| 9. 栄町 | 10. 若葉町 | 11. 幸町 | 12. 柏町 |
| 13. 砂川町 | 14. 上砂町 | 15. 一番町 | 16. 西砂町 |

Q2. あなたの性別をご回答ください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

Q3. あなたの年齢をご回答ください。

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 15～19 歳 | 2. 20～24 歳 | 3. 25～29 歳 | 4. 30～39 歳 |
| 5. 40～49 歳 | 6. 50～59 歳 | 7. 60～69 歳 | 8. 70 歳以上 |

Q4. あなたの職業をご回答ください。

- | | | | |
|---------|--------|---------|------------|
| 1. 会社員 | 2. 自営業 | 3. 農林漁業 | 4. 学生 |
| 5. 家事専業 | 6. 公務員 | 7. 無職 | 8. その他 () |

Q5. あなたの勤め先(学校)の所在地をご回答ください。

- | | | | |
|-------|---------|-------------|-------|
| 1. 市内 | 2. 多摩地区 | 3. 東京都 23 区 | 4. 都外 |
|-------|---------|-------------|-------|

立川駅周辺の利用状況についてうかがいます。(該当する番号を○で囲んでください)

Q6. 立川駅周辺をどの程度の頻度で利用していますか。

- | | | |
|-------------|-----------------------|-------------|
| 1. ほぼ毎日利用する | 2. 週に 1、2 回利用する | 3. 月に 1、2 回 |
| 4. 年に数回 | 5. ほとんど利用しない(Q12 へ) | |

「5. ほとんど利用しない」と回答した方は、Q12 からご回答ください。

Q7. 立川駅周辺をどのような目的で利用していますか。(主な目的に 3 つまで○)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 買物 | 2. 飲食 |
| 3. 銀行・病院など | 4. レジャー・スポーツ |
| 5. 他地区への通勤・通学(通過) | 6. 駅周辺へ通勤・通学(会社・予備校など) |
| 7. デート・待ち合わせ | 8. 業務所用(会合・訪問など) |
| 9. ウィンドウショッピング | 10. ほとんど利用しない |
| 11. その他 () | |

Q8．よく利用する場所（お店）を 3 つまでご回答ください。また、その場所（お店）の利用目的を 2 つまでご回答ください。

	よく利用する場所（お店）	主な利用目的	
記入例	13	b	i ()
場所			
場所			
場所			

番号を記入してください

アルファベットを
記入してください

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1. エキュート立川 | 2. グランデュオ |
| 3. ルミネ立川店 | 4. 第一デパート |
| 5. 伊勢丹立川店 | 6. パークアベニュー |
| 7. 高島屋立川店 | 8. 立川モディ |
| 9. アレアレア 1・2 | 10. フロム中武 |
| 11. ダイエー立川店 | 12. 立川南口駅前ビル |
| 13. ビックカメラ立川店 | |
| 14. 映画館（シネマシティ、シネマツ） | |
| 15. 立川駅北口の商店街 | |
| 16. 立川駅南口の商店街 | |
| 17. その他 | |

- | |
|-----------------|
| a. 買物 |
| b. 飲食 |
| c. 銀行・病院等 |
| d. レジャー・スポーツ |
| e. デート・待ち合わせ |
| f. 業務所用（会合・訪問等） |
| g. ウィンドウショッピング |
| h. 駐車場 |
| i. その他 () |

Q9．立川駅周辺での 1 回の滞在時間は平均してどのくらいですか。

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| 1. 30 分以内 | 2. 31～60 分 | 3. 61～90 分 |
| 4. 91～120 分 | 5. 121～150 分 | 6. 151 分以上 |

Q10．立川駅まではどの交通手段で来ることが多いですか。

- | | | |
|---------|------------|------------|
| 1. 徒歩 | 2. 路線バス | 3. くるりんバス |
| 4. 電車 | 5. モノレール | 6. 乗用車 |
| 7. タクシー | 8. 自転車・バイク | 9. その他 () |

Q11．立川駅周辺に来たときに複数の場所（お店）を回ることはいくつありますか。

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. 複数の場所を回ることが多い | 2. 時々複数の場所を回る |
| 3. 複数の場所を回ることはいくつもない | |

Q12．立川駅周辺のデッキの利便性についてどのように感じていますか。（あてはまるものすべてに。）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 上り下りが少なく便利 | 2. 信号待ちをしなくても目的地に着ける |
| 3. 車や自転車が通らないので安全 | 4. 上空が開けていて開放感がある |
| 5. 目的地まで一番近いルートで早く着ける | 6. 屋根がある場所は雨に濡れなくてよい |
| 7. 人が多くて歩きづらい | 8. デッキの案内がなく行き先がわかりづらい |
| 9. その他 () | |

Q13．今後このデッキがどのようなになればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに。）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. もっと遠くまで行けるようになるとよい | 2. デッキから入れるお店が増えるるとよい |
| 3. 地上に降りられる場所が増えるるとよい | 4. デッキ上に休憩できるベンチがあるとよい |
| 5. デッキの案内サインが充実するとよい | 6. 現状のデッキで満足している |
| 7. その他 () | |

58 街区の利活用についてうかがいます。

現在立川市では、活力ある中心市街地を目指し、立川駅周辺や旧庁舎周辺地域の活用などを検討しています。旧庁舎地域では、立川駅南口の活性化などを目指し、地域に導入する機能を以下の 4 つに整理しています。

< 旧庁舎周辺地域における導入機能 >

- 文化・芸術機能 : 市民会館を、多摩地域全体から人を招く“文化・芸術の発信地”として整備する
- 出会い交流機能 : 多様な人々の“出会いや交流”の拠点として、さらに地域にもその輪を広げる
- 地域活性化機能 : ちょっと寄ってみたくなる“お洒落で楽しい”場所やまちなみがある
- 健康・子育て機能 : 地域医療支援病院と連携し、市民の“健康や子育て”を支援する機能を充実させる

また、58 街区の利活用に関しては、立川駅南口に近接した立地条件や今後のまちの方向性などを勘案して、以下の 5 つの機能の導入を考えています。

< 58 街区における導入機能（案） >

- 恒久的な駐輪施設の設置
- 創業活動の支援
- 子育て世代の来街者の利便性向上
- イベント・セミナー等へのスペース提供
- 総合案内所

Q14．立川駅南口や周辺地域の活性化のためにはどのようなことが重要だと思いますか。
（該当するものに○ 項目ごとに 1 つ）

		とても重要	やや重要	どちらでも	あまり重要ではない	まったく必要はない
【記入例】 それぞれの事項に、重要と思うかそうでないか、あてはまる位置に○をつけてください。		① 必要であると思う場合ここに○				
1	もっと多くの店舗や施設を誘致して買い物客を増やす	+	+	+	+	+
2	オフィスを増やして市外から企業を誘致する	+	+	+	+	+
3	立川のお店や見所をアピールして来街者を増やす	+	+	+	+	+
4	コンサートなどのイベントを多く開催する	+	+	+	+	+
5	活発な市民活動を行って地域の魅力を発信する	+	+	+	+	+
6	デッキを延ばして利便性を高める	+	+	+	+	+
7	自転車・バスなどの利用を進めて渋滞を少なくする	+	+	+	+	+
8	利用者が気軽にくつろげる休憩スポットをつくる	+	+	+	+	+
9	その他、重要だと思うこと（					

Q15 . 58 街区にはどのような施設があるとよいと思われますか。施設ごとにその必要性についてご回答ください。(該当するものに○ 項目ごとに1つ)

		必要である	どちらか必要	どちらでも	どちらか不要	不要である
【記入例】 それぞれの施設に、必要と思うか不要と思うか、あてはまる位置に○をつけてください。		☒ 必要であると思う場合ここに○				
1	各種イベントが開催できるステージ・ホール	+	+	+	+	+
2	若手のアーティストが活動できるギャラリー	+	+	+	+	+
3	NPO、サークル等が活動できるスペース	+	+	+	+	+
4	料理教室や各種講座などが開催できる教室・実習室	+	+	+	+	+
5	事務局などに適した長期間の貸し部屋	+	+	+	+	+
6	図書館の出張サービスを受けられるミニ図書館	+	+	+	+	+
7	打ち合わせなどに適した貸会議室	+	+	+	+	+
8	団体間の交流ができるホール・談話室	+	+	+	+	+
9	外から見ることのできるイベントスペース	+	+	+	+	+
10	立川や多摩の名産品を売るアンテナショップ	+	+	+	+	+
11	安い費用で出店できる一坪ショップ	+	+	+	+	+
12	フリーマーケットやイベントができる広場	+	+	+	+	+
13	買い物などに利用できる自転車駐輪場（一時利用）	+	+	+	+	+
14	通勤や通学などに利用できる自転車駐輪場（定期利用）	+	+	+	+	+
15	買い物などに利用できるバイク駐輪場（一時利用）	+	+	+	+	+
16	通勤や通学などに利用できるバイク駐輪場（定期利用）	+	+	+	+	+
17	レンタル・シェアなど自転車共同利用の拠点（ポート）	+	+	+	+	+
18	来街者に地域の情報を提供するまちなか案内所	+	+	+	+	+
19	証明書自動発行などの無人公共サービス施設	+	+	+	+	+
20	健康のためにスポーツや体操ができる施設	+	+	+	+	+
21	自己健康チェックや健康相談ができる健康相談所	+	+	+	+	+
22	専門家などと育児の相談や交流ができる育児支援所	+	+	+	+	+
23	買物をする短時間に子どもを預けられる託児所	+	+	+	+	+

Q16 . 現在、立川駅南口周辺に不足していると感じる施設はありますか。

Q17 . 58 街区の活用方法などについてのご意見・要望を自由にご記入ください。

以上で質問は終わりです。アンケートにご協力ありがとうございました。

立川駅周辺の利用状況と立川駅南口駐輪場用地（58 街区）の
活用に関するアンケート調査へのご協力をお願い

立川市では、現在、立川駅南口第二有料自転車等駐車場（旧南口バスロータリー跡地）として利用されている東京都（1,600㎡）と立川市（400㎡）の公共用地（4ページ地図参照。以下「58街区」といいます。）の本市所有分に係る有効な活用方法について検討を進めています。58街区の今後の検討の参考とさせていただくため、立川駅周辺の利用状況や58街区の活用方法への要望などについて立川市外の皆様のご意見をぜひお聞かせください。

あなた自身のことについてうかがいます。(該当する番号を○で囲んでください)

Q 1 . お住まい	1 . (市)
Q 2 . 性別	1 . 男性 2 . 女性
Q 3 . 年代	1 . 10 代 2 . 20 代 3 . 30 代 4 . 40 代 5 . 50 代 6 . 60 代 7 . 70 代以上
Q 4 . ご職業	1 . 会社員 2 . 自営業 3 . 農林漁業 4 . 学生 5 . 家事専業 6 . 公務員 7 . 無職 8 . その他 ()
Q 5 . お勤め先	1 . 立川市内 2 . 多摩地区 3 . 東京 23 区 4 . 都外

立川駅周辺の利用状況についてうかがいます。(該当する番号を○で囲んでください)

Q6. 立川駅周辺をどの程度の頻度で利用していますか。

1. ほぼ毎日利用する 2. 週に 1、2 回利用する 3. 月に 1、2 回
4. 年に数回 5. ほとんど利用しない(Q12 へ)

「5. ほとんど利用しない」と回答した方は、012 からご回答ください。

Q7. 立川駅周辺をどのような目的で利用されますか。(主な目的に3つまで。)

1. 買物	2. 飲食
3. 銀行・病院など	4. レジャー・スポーツ
5. 他地区への通勤・通学（通過）	6. 駅周辺へ通勤・通学（会社・予備校など）
7. デート・待ち合わせ	8. 業務所用（会合・訪問など）
9. ウィンドウショッピング	10. ほとんど利用しない
11. その他（	

Q8. よく利用される場所（お店）を 3 つまでご回答ください。

1. エキュート立川	2. グランデュオ	3. ルミネ立川店
4. 第一デパート	5. 伊勢丹立川店	6. パークアベニュー
7. 高島屋立川店	8. 立川モディ	9. アレアレア 1・2
10. フロム中武	11. ダイエー立川店	12. 立川南口駅前ビル
13. ビックカメラ立川店	14. 映画館(シネマシティ、シネマツ)	15. 立川駅北口の商店街
16. 立川駅南口の商店街	17. その他()	

Q9. 1 回の訪問で平均してどのくらい滞在されますか。

1. 30 分以内	2. 31 ~ 60 分	3. 61 ~ 90 分
4. 91 ~ 120 分	5. 121 ~ 150 分	6. 151 分以上

Q10. どの交通手段でいらっしゃいましたか。

1. 徒歩	2. 路線バス	3. くるりんバス
4. 電車	5. モノレール	6. 乗用車
7. タクシー	8. 自転車・バイク	9. その他()

Q11. 1 回の訪問で複数の場所（お店）を回りますか。

1. 複数の場所を回ることが多い	2. 時々複数の場所を回る
3. 複数の場所を回ることはない	

Q12．立川駅周辺のデッキの利便性についてどのように感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1．上り下りが少なくて便利 | 2．信号待ちをしなくても目的地に着ける |
| 3．車や自転車が通らないので安全 | 4．上空が開けていて開放感がある |
| 5．目的地まで一番近いルートで早く着ける | 6．屋根がある場所は雨に濡れなくてよい |
| 7．人が多くて歩きづらい | 8．デッキの案内がなく行き先がわかりづらい |
| 9．その他() | |

Q13．今後このデッキがどのようになればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1．もっと遠くまで行けるようになるとよい | 2．デッキから入れるお店が増えるとよい |
| 3．地上に降りられる場所が増えるとよい | 4．デッキ上に休憩できるベンチがあるとよい |
| 5．デッキの案内サインが充実するとよい | 6．現状のデッキで満足している |
| 7．その他() | |

58 街区の利活用についてうかがいます。

現在立川市では、活力ある中心市街地を目指し、立川駅周辺や旧庁舎周辺地域の活用などを検討しています。旧庁舎地域では、立川駅南口の活性化などを目指し、地域に導入する機能を以下の 4 つに整理しています。

< 旧庁舎周辺地域における導入機能 >

- 文化・芸術機能 : 市民会館を、多摩地域全体から人を招く“文化・芸術の発信地”として整備する
- 出会い交流機能 : 多様な人々の“出会いや交流”の拠点として、さらに地域にもその輪を広げる
- 地域活性化機能 : ちょっと寄ってみたくなる“お洒落で楽しい”場所やまちなみがある
- 健康・子育て機能 : 地域医療支援病院と連携し、市民の“健康や子育て”を支援する機能を充実させる

また、58 街区の利活用に関しては、立川駅南口に近接した立地条件や今後のまちの方向性などを勘案して、以下の 5 つの機能の導入を考えています。

< 58 街区における導入機能 >

- 恒久的な駐輪施設の設置
- 創業活動の支援
- 子育て世代の来街者の利便性向上
- イベント・セミナー等へのスペース提供
- 総合案内所

Q14．立川駅南口や周辺地域の活性化のためにはどのようなことが重要だと思いますか。(該当するものに○ 項目ごとに 1 つ)

		とても重要	やや重要	どちらでもない	あまり重要ではない	まったく重要ではない
	【記入例】 それぞれの施設に、必要と思うか不要と思うか、あてはまる位置に○をつけてください。	⊕	—	—	—	—
1	もっと多くの店舗や施設を誘致して買い物客を増やす	—	—	—	—	—
2	オフィスを増やして市外から企業を誘致する	—	—	—	—	—
3	立川のお店や見所をアピールして来街者を増やす	—	—	—	—	—
4	コンサートなどのイベントを多く開催する	—	—	—	—	—
5	活発な市民活動を行って地域の魅力を発信する	—	—	—	—	—
6	デッキを延ばして利便性を高める	—	—	—	—	—
7	自転車・バスなどの利用を進めて渋滞を少なくする	—	—	—	—	—
8	みどりや街並みの美しい景観をつくる	—	—	—	—	—
9	その他()	—	—	—	—	—

Q15．58 街区にはどのような施設があるとよいと思われますか。施設ごとにその必要性について
ご回答ください。（該当するものに○ 項目ごとに 1 つ）

		必要 あ る	どちら かとい えは必 要	どちら でもな い	どちら かとい えは不 要	不要 あ る
【記入例】 それぞれの施設に、必要と思うか不要と思うか、あてはまる位 置に○をつけてください。		+ + + + + 必要であると思う場合ここに○				
1	各種イベントが開催できるステージ・ホール	+	+	+	+	+
2	若手のアーティストが活動できるギャラリー	+	+	+	+	+
3	NPO、サークル等が活動できるスペース	+	+	+	+	+
4	料理教室や各種講座などが開催できる教室・実習室	+	+	+	+	+
5	事務局などに適した長期間の貸し部屋	+	+	+	+	+
6	図書館の出張サービスを受けられるミニ図書館	+	+	+	+	+
7	打ち合わせなどに適した貸会議室	+	+	+	+	+
8	団体間の交流ができるホール・談話室	+	+	+	+	+
9	外から見ることのできるイベントスペース	+	+	+	+	+
10	立川や多摩の名産品を売るアンテナショップ	+	+	+	+	+
11	安い費用で出店できる一坪ショップ	+	+	+	+	+
12	フリーマーケットやイベントができる広場	+	+	+	+	+
13	買い物などに利用できる自転車駐輪場（一時利用）	+	+	+	+	+
14	通勤や通学などに利用できる自転車駐輪場（定期利用）	+	+	+	+	+
15	買い物などに利用できるバイク駐輪場（一時利用）	+	+	+	+	+
16	通勤や通学などに利用できるバイク駐輪場（定期利用）	+	+	+	+	+
17	レンタル・シェアなど自転車共同利用の拠点（ポート）	+	+	+	+	+
18	来街者に地域の情報を提供するまちなか案内所	+	+	+	+	+
19	証明書自動発行などの無人公共サービス施設	+	+	+	+	+
20	健康のためにスポーツや体操ができる施設	+	+	+	+	+
21	自己健康チェックや健康相談ができる健康相談所	+	+	+	+	+
22	専門家などと育児の相談や交流ができる育児支援所	+	+	+	+	+
23	買物をする短時間に子どもを預けられる託児所	+	+	+	+	+

Q16．現在、立川駅南口周辺に不足していると感じる施設はありますか。

Q17．58 街区の活用方法などについてのご意見・要望があれば、自由にご記入ください。

立川市 58 街区の利活用計画策定に向けた検討調査
報 告 書

発行日 平成 24 年 3 月

発 行 立川市

編 集 立川市総合政策部企画政策課

〒190-8666

立川市泉町 1156 番地の 9

TEL 042-523-2111(代)